

6 博物館ネットワーク

北海道内の中核的な博物館として、道内の博物館や資料館などとの連携をとおして、北海道の自然・歴史・文化の活用を実践し、道内博物館全体の水準の向上や活力の強化するためのネットワークづくりを構築していくことで、地域の活性化に貢献することを目的とした事業や活動を展開しています。

博物館ネットワーク(北海道博物館協会など外部組織との連携)

北海道の中核的な博物館としての役割を果たすための取組の1つとして、博物館同士のネットワークをより強固なものとするため、北海道博物館協会、日本博物館協会等、各種博物館団体と連携した活動を行っています。

北海道博物館協会

昭和36(1961)年に発足した道内博物館のネットワークであり、110を超える館園が加盟しています。博物館大会、ミュージアム・マネージメント研修会の開催、各種刊行物の発行などの事業を展開し、道内の博物館活動の振興発展に寄与することを目的としています。当館では、前身の開拓記念館が1981(昭和56)年度から事務局の運営を担うとともに、協会の活動に関わっています。

平成30(2018)年度は、第57回北海道博物館大会が7月20日、21日に七飯町において開催され、ミュージアム・マネージメント研修会は9月5日、6日に倶知安町において開催されました。

平成30年度 北海道博物館協会関係

北海道博物館協会 会長	石森 秀三
北海道博物館協会 事務局長	舟山 直治
北海道博物館協会 事務局次長	栗原 憲一
北海道博物館協会 事務局員	大谷 洋一
北海道博物館協会 事務局員	遠藤 志保
北海道博物館協会 事務局員	圓谷 昂史
北海道博物館協会 事務局員	尾曲 香織
北海道博物館協会 道央地区博物館連絡協議会 理事	舟山 直治

第57回北海道博物館大会(概要)

主催	北海道博物館協会、日本博物館協会北海道支部、七飯町教育委員会
共催	道南ブロック博物館施設等連絡協議会
後援	北海道教育委員会、公益財団法人日本博物館協会
大会内容	7月20日 北海道博物館協会総会、ポスターセッション、博物館大会、開会式、表彰式、特別報告、研究大会、閉会式 (会場:七飯町文化センター・スターホール) ※研究大会テーマ「話芸に学ぶ、伝える技術 一講 談一」 21日 エクスカーション Aコース「箱館戦争を巡る」:五稜郭タワー、箱館奉行所、函館美術館 Bコース「七飯周辺を巡る」:七飯町歴史館、北斗市郷土資料館、道の駅 ないろななえ

日本博物館協会

当館は博物館の全国組織である公益財団法人日本博物館協会とも連携し、また、同協会北海道支部の支部長館ともなっており、全国規模の組織と道内の博物館をつなぐ役割を果たしています。

今年度は、平成31(2019)年3月7~8日に平成30年度第2回研究協議会を、北海道博物館を会場として実施しました。

平成30年度の日本博物館協会関係への職員の委嘱

公益財団法人日本博物館協会 参与	石森 秀三
公益財団法人日本博物館協会 北海道支部長	石森 秀三

全国歴史民俗系博物館協議会

当館は歴史・民俗系博物館の全国ネットワーク組織である全国歴史民俗系博物館協議会に加盟し、北海道地域の幹事館として、全国と道内博物館をつなぐ中継館としての役割を担っています。

その他

「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」への参画

この事業は、兵庫県立人と自然の博物館を事務局館とした自然史レガシー継承・発信実行委員会が、文部科学省の公募型委託事業である「博物館ネットワークによる未来へのネットワーク継承・発信事業」を受託したものです。全国の自然史系博物館をネットワーク化し、自然史資料の収蔵から活用までの意義について広く発信することを目的としています。

主な事業内容は、①収蔵庫の再構築をテーマとした事例や技術の集積と事例集の作成、②自然史資料の価値を幅広い層に発信するための実験的な展示の実践、③小規模館が地域資源を元にして作り上げた優れたコンテンツによる巡回展の開催といった、3つのパートからなっています。

当館は、平成 28 (2016) 年度から参加館として参画しています。平成 30 (2018) 年度には、京都・龍岸寺にて企画展「仏教と自然 Where culture meets nature～日本文化を育んだ自然～」(2018 年 12 月 14 日～24 日) を実施したほか、公開シンポジウム「ミュージアムが公共空間を彩る」(2019 年 1 月 12 日) を北海道大学総合博物館にて開催し、当館からも職員 4 名が参加しました。

自然史レガシー継承・発信実行委員会

実行委員会	①事業実施組織
	博物館名
	北海道博物館
	栃木県立博物館
	三重県総合博物館
	大阪市立自然史博物館
	橿原市昆虫館(平成28年度のみ)
	伊丹市昆虫館(平成29年度のみ)
	北九州市立自然史・歴史博物館
	国立科学博物館
②事業推進担当館	
博物館名	
兵庫県立人と自然の博物館	

「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」への参画

平成 30 年度文部科学省委託事業「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」の委託を受け、国立科学博物館、北海道博物館協会、北海道博物館が連携して、地域博物館及び博物館職員の活動の活性化に資するべく実施した事業です。

『「出会いと学び」を通じた学芸員資質向上と博物館機能強化モデルの展開」というテーマのもと、博物館関係者同士あるいは他業種との「出会いと学び」を通じて道内博物館の機能強化に寄与することを目指し、道内各地で研修やシンポジウムなどを展開しました。

主な事業

事業名称	実施内容	場所	実施日
「えほん meets 博物館」	未就学児向けイベント	①三笠市立博物館 ②滝川市美術自然史館 ③北海道博物館	①9月23日 ②9月24日 ③12月15日、1月19日
北海道博物館協会学芸員部会研修会	資料の取り扱いと修復	美幌博物館	9月28日～29日
日胆地区博物館等連絡協議会平成30年度研修会	博物館の展示の魅力を伝える	豊浦町礼文華中学校	10月16日～17日
道北地区博物館等連絡協議会平成30年度研修会	樹脂封入標本の製作	士別市立博物館	10月27日
網走館内博物館連絡協議会研修会	樹脂を使った標本作製ワークショップ	美幌博物館	10月28日
北海道青少年科学館連絡協議会研修会	人と科学をつなげるサイエンスコミュニケーション	札幌市青少年科学館	11月15～16日
道南ブロック博物館施設等連絡協議会研修会	博物館施設における多言語化	江差町保健センター	12月4日
巡回展「生命のれきしー君につながるものがたりー」	国立科学博物館巡回ミュージアム	①北海道博物館 ②北網圏北見文化センター	①12月8日～1月20日 ②1月29日～3月3日
平成30年度道央地区博物館等連絡協議会第3回研修会	シンポジウム「地域の情報発信拠点としての博物館」(博物館と観光、地域の情報発信とのつながり)	北海道博物館	1月18日
道東3管内博物館施設等連絡協議会研修会	博物館の展示制作について考えよう	釧路市立博物館	2月20日～21日

北のミュージアム活性化実行委員会

野幌森林公園内の各施設（北海道博物館、北海道開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館）では、互いの堅固なネットワークづくりを基盤に北海道の中核的な文化拠点としての役割を果たすため、「北のミュージアム活性化実行委員会」を組織し、事務局を北海道博物館内に置いています。北海道博物館協会等の協力も得ながら、道内博物館等施設全体の水準の向上や活力の強化、および地域の振興に寄与することを目的とした活動を行っています。

平成 30 年度 の取組

平成 30 年度「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業（地域の美術館・歴史博物館を中核とする文化クラスター形成支援事業）」の交付を受け、北海道内の博物館園において、福祉施設の利用者を含む多様な来場者への対応をめぐる問題点や課題を集約し共有すること、そして、年代や性別、障がいの有無などに限らず全ての利用者が享受できる、バリアフリーな博物館活動としてのあるべき姿を模索するための機会とするような取り組みを進めました。

この事業では、北海道博物館協会の協力も得て、道内博物館におけるバリアフリーに関する取り組みについてのアンケート調査を実施しました。このほか、道内 6 地域の博物館と北海道開拓の村、北海道博物館が体験ブースを出展した一般向け体験型イベント「北のみゆぜふえす」（10 月 28 日）を開催しました。このイベントをとおして、各地域の博物館等職員・関係者と多様な来場者がふれあい、教材のあり方を考える機会を創出するとともに、道内博物館園の PR、活動報告、各地域の博物館情報を発信しました。

北のミュージアム活性化実行委員会

役員		
役職	氏名	所属
会長	石森 秀三	北海道博物館 館長
副会長	右代 啓規	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主幹
副会長	西 吉樹	一般財団法人北海道歴史文化財団 法人本部長
委員	堀 繁久	北海道博物館 学芸部博物館基盤グループ学芸主幹
委員	水島 未記	北海道博物館 学芸部社会貢献グループ学芸主幹
委員	池田 貴夫	北海道博物館 学芸部道民サービスグループ学芸主幹
委員	松井 則彰	一般財団法人北海道歴史文化財団 営業本部長
委員	細川 健裕	一般財団法人北海道歴史文化財団 事業本部主幹
事務局		
役職	氏名	所属
事務局長	三浦 泰之	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主幹
事務次長	栗原 憲一	北海道博物館 学芸部社会貢献グループ学芸員
事務局員	会田 理人	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主査
事務局員	遠藤 志保	北海道博物館 総務部企画グループ研究職員
事務局員	徳本 彩	北海道博物館 総務部総括グループ主任

一般向け体験型イベント「北のみゆぜふえす」

日時	10 月 28 日	参加者数	349 名
場所	北海道博物館 講堂		
共催	北海道博物館、一般財団法人北海道歴史文化財団	協力	北海道博物館協会
ワークショップ内容 <ul style="list-style-type: none"> ・岩石や砂の観察（地図と鉱石の山の手博物館） ・石器レプリカづくり ～ピリカ遺跡出土石器のレプリカを作る～（ピリカ旧石器文化館） ・縄文ぬり絵プラ板アクセサリーづくり（様似郷土館／アポイ岳ジオパークビジターセンター） ・アイヌ文様コースター・アイヌ文様しおりづくり（旭川市博物館） ・オホーツクの貝ストラップづくり（網走市立郷土博物館） ・糸でヤチボウズのマスコットをつくる（釧路市立博物館／浦幌町立博物館） ・入門 わら細工（北海道開拓の村） ・化石にさわろう！（午前のみ）（北海道博物館） ・アイヌ民具にふれよう！（午後）（北海道博物館） 			



周辺施設とのネットワーク

かるちやる net

平成 22（2010）年 2 月、野幌森林公園周辺の札幌市厚別区と江別市の文化施設が集まり、相互の協力・連携を密にするための協議会として「かるちやる net」（文化施設連絡協議会）が発足しました。参加施設は 10 施設で当館が事務局を担当し、各施設の広報・PR 活動や体験イベントなどを共同で開催しています。事業の実施に際しては、各施設における活動に加え、平成 21（2009）年 12 月に北海道とイオン北海道株式会社の間で締結された包括連携協定（道の教育・文化施設の広報活動への協力・協働事業の実施）を活用し、より広い層への PR を行っています。

<参加施設>

- ・札幌市青少年科学館 ・サンピアザ水族館 ・江別市セラミックアートセンター ・江別市郷土資料館
- ・北海道立図書館 ・北海道立教育研究所 ・北海道立埋蔵文化財センター ・野幌森林公園自然ふれあい交流館
- ・北海道開拓の村 ・北海道博物館

平成 30 年度の実施内容

(1) 「てくてく、べったん！かるちやるスタンプラリー」

日 時	①2018年4月28日～5月6日(春休みバージョン) ②2018年7月14日～8月19日(夏休みバージョン)	参加者数	①3,243名(シート配布数) ②7,767名(シート配布数)
場 所	北海道立図書館、北海道立教育研究所を除く8館		
かるちやるnet加盟館で専用のシートを配布し、そこに特製のスタンプを押すスタンプラリーを実施しました。5館分のスタンプを集めると記念品を贈呈し、8館すべての館のスタンプを集めると、さらに記念品をもう1つ贈呈しました。			

(2) 「発見・体験 文化の秋～遊ぼう！学ぼう！あつべつ・えべつ」

日 時	2018年10月7日	参加者数	976名
場 所	サンピアザ光の広場(札幌市厚別区厚別中央2条5丁目)		
かるちやるnet参加施設とその活動内容について、パネルや資料などの展示や体験イベントを通じて紹介しました。当館は「オリジナル缶バッジをつくろう」を出展しました。			
【ワークショップ】			
・体験！デジタル宇宙旅行(札幌市青少年科学館)			
・金魚すくい体験(サンピアザ水族館)			
・オリジナル缶バッジをつくろう！(北海道博物館)			
・砂絵をつくろう！(北海道立埋蔵文化財センター)			
【常設コーナー】			
・昔あそび体験(札幌市青少年科学館)			
・毛皮タッチング体験(サンピアザ水族館)			
・大型絵本、仕掛け絵本、木育コーナー(北海道博物館)			
・クイズラリー(北海道立埋蔵文化財センター)			



イベントの様子

(3) 施設PRパネル展

日 時	2019年1月5日～6日
場 所	サンピアザ光の広場(札幌市厚別区厚別中央2条5丁目)

(4) 共通行事予定チラシの作成・発行

かるちやる通信として、各施設の行事予定表をまとめたチラシを数ヶ月に1度発行しました。

タイトル	発行	
かるちやる通信	2018年4～6月号	2018年4月
かるちやる通信	2018年7～9月号	2018年6月
かるちやる通信	2018年10～12月号	2018年9月
かるちやる通信	2019年1～3月号	2018年12月

(5) 商業施設でのPR活動の実施

サンピアザ光の広場とイオン札幌平岡店にチラシラックを設置し、各施設のリーフレットやチラシ等を配布しました。

CISE ネットワーク

CISE ネットワークは、北海道大学総合博物館を中心に、札幌周辺地域の博物館・科学館・動物園・図書館等の教育施設が連携し、実物科学教育を推進することを目的としてつくられたネットワークです。教育プログラム、教材の開発・活用、イベントの主催、他組織主催イベントへの出展等の活動を行っています。当館は平成 27 (2015) 年 4 月に北海道博物館が総合博物館として開館したことにより、自然史系・科学系の博物館等との連携を深めるため、平成 27 (2015) 年度に正式メンバーとして加わりました。

・「CISE サイエンス・フェスティバル『博物館ひろば』」

主 催	CISE ネットワーク運営委員会、北海道大学総合博物館、自然史レガシー継承・発信実行委員会
日 時	2019 年 1 月 13 日～14 日
参加者数	13 日:968 名、14 日:940 名
場 所	北海道大学総合博物館(札幌市北区)
当館は「発見いろいろ！ 体験ブース」の一環として、「生き物たちの北海道動物になりきろう！」という展示ブースで参加しました。	



イベントの様子

生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク

札幌市内の環境関連施設のネットワークです。札幌市が、市内にある動物園・水族館などの環境関連施設を生物多様性に関する活動拠点として位置づけ、各施設間での情報共有や連携を進めることを目的として設立したネットワークです。当館は平成 27 (2015) 年度から参画しました。

・「いきものつながりクイズラリー」

日 時	2018 年 7 月 28 日～8 月 31 日	参加者数	1,505 名(のべ回答数)
生物多様性に関する理解の向上と、「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」の PR を図るために夏休み期間を中心に実施したクイズラリーです。参加賞のプレゼントのほか、全問正解者には「さっぽろいきもの博士認定証」をプレゼントしました。当館も参加し、第 5 テーマ「生き物たちの北海道」付近にクイズを設置しました。			

外部イベントへの参画

サイエンスパーク

子どもたちが科学技術を身近に体験・学習する機会を提供し、豊かな北海道の未来を創る科学技術の振興を図ることを目的に、北海道と独立行政法人北海道総合研究機構の共催で開催され、民間企業等も参加しているイベントです。当館の前身である北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターは毎年この事業に参画してきました。北海道博物館としても、この取組を引き継ぎ、体験活動を通じた北海道の自然・歴史・文化に関する知識の普及や事業の PR 活動を行っています。

主 催	北海道、地方独立行政法人北海道総合研究機構
日 時	2018 年 7 月 27 日
参加者数	325 名
場 所	札幌駅前地下歩行空間
当館は、アンモナイトや貝殻のレプリカストラップ作りを体験してもらう「レプリカを作ろう」のブースを設置して、このイベントに参加しました。	



サイエンスパークの様子

カルチャーナイト

札幌市内の文化施設を夜間開放し、市民が地域の文化を楽しむイベントです。当館では、北海道の自然・歴史・文化に親しんでもらうことを目的に、赤れんが庁舎内「北海道博物館赤れんがサテライト」の夜間開放と解説活動を実施しています。

主催	認定NPO 法人カルチャーナイト北海道(カルチャーナイト実行委員会)
日時	2018年7月20日
参加者数	42名
場所	北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)
「北海道博物館赤れんがサテライト」の夜間開放を実施しました。	



カルチャーナイトの様子

教員のための博物館の日 in 札幌

「教員のための博物館の日」は、国立科学博物館により始められた事業で、地域の学校の教員などに博物館利用のメリットや可能性を伝える事業です。

主催	一般財団法人北海道歴史文化財団、道央地区博物館等連絡協議会、独立行政法人国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会
後援	文部科学省、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道博物館協会、北海道教育大学、北海道社会科教育連盟、北海道造形教育連盟、北海道小学校理科研究会、北海道中学校理科教育研究会
日時	2018年7月26日、27日
参加者数	1日目:81名、2日目:45名
場所	北海道博物館、北海道開拓の村
研修内容	
1日目	研修1「札幌近郊の博物館の展示内容や利用方法」 研修2「アイヌ文化の基礎知識」、「学校とアイヌ文化と博物館」 研修3「北海道開拓の村『村内ガイドツアー』」
2日目	研修4「北海道博物館の『展示ガイドツアー』—学習と指導のポイント—」 研修5「体験学習と教材の活用方法」 研修6「見学時の学習を深める活動紹介」



教員のための博物館の日 in 札幌の様子

7 地域交流・社会貢献

道民や市民団体等が学びの場、または学びの発表の場として博物館を活用する取組や、さまざまな博物館事業に参画しながら、主体的に活動する事業などを展開しています。

また、北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、研究成果を活かして広く社会に貢献するとともに、北海道の豊かな未来の実現にも貢献していくため、外部団体などの研修協力や各種委員の派遣などを行っています。

道民参加型組織

開拓記念館では、来館者により良く利用していただくために、さまざまなアイディアや意見をお寄せいただくことを目的として、平成17(2005)年度から「ミュージアム・メイト」制度を導入し(任期2年)、平成26(2014)年度まで実施してきました。

北海道博物館の開設とともに、「ミュージアム・メイト」制度は終了しましたが、道民の博物館活動への参加のあり方の検討には継続して取り組んでおり、平成30(2018)年度は、組織の創設への試行的な取組として、当館の図書室における「図書室支援員制度」を実施しました。

図書室支援員制度

平成30(2018)年6月から始めた、当館の図書室で蔵書の整理等をお手伝いいただくボランティア制度です。今年度は、2名の「支援員」の方に、週1回程度の支援をいただきました。なお、平成31(2019)年4月現在、支援員の公募等は行っておりません。

道民協働・発信事業の展開

道民が発信者として博物館活動に参画する機会の1つとして、当館の展示の一部を道民や各種団体などと協働で作成する取組を進めています。

道民参加型展示コーナー

道民参加型事業の導入に向けて、北海道の自然・歴史・文化を題材として活動している団体や研究会が所蔵する資料を展示するコーナーを、当館の中2階にある休憩ラウンジ内に設置しています。

団体名	北海道化石会
資料	アンモナイト化石28点(北海道化石会所蔵)
期間	平成28年(2016)1月29日～平成31(2019)年3月31日(継続中)

今とこれからを創る

総合展示室2階にある第4テーマでは、北海道に住む同時代を生きる人々が各地で直面している課題に取り組み、北海道の現在と未来を創りつつある状況を伝えることを目的に、その活動を行っている人に主体的に展示に関わっていただくコーナーを設けています。

平成30年度の実施内容

展示内容	執筆・協力者	
1926年十勝岳噴火から90年	上富良野町郷土をさぐる会(協力)	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日
アポイ岳の高山植物を守る	様似町商工観光課アポイ岳保全係 坂下志朗氏(執筆)	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日
アイヌ文化の保存と伝承のために	白糠アイヌ文化保存会 磯部恵津子氏、 白糠町教育委員会社会教育係 竹ヶ原浩司氏(執筆)	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日

※実施内容は、平成29年度と同じ。

他機関等との協力・連携

(1) 市民・他団体との連携

平成30年度の市民・他団体との連携(15件)

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
協力(参加)	北海道命名150年記念! 北海道スマホスタンプラリー	NEXCO 東日本 北海道支社	4月27日~6月10日、 6月16日~11月5日、 11月23日~4月2日	北海道博物館
共催・協力	「地質の日」記念展「北海道のジオサイトに見る岩石」	「地質の日」記念展実行委員会・北海道大学総合博物館	4月27日~6月17日	北海道大学総合博物館
共催	特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」PR パネル展	センチュリーロイヤルホテル	5月12日~5月31日	センチュリーロイヤルホテル(札幌市)
共催・協力	北海道博物館特別展開連セミナー「ここがすごいぞ! 北海道博物館特別展「幕末を生きた旅の巨人 松浦武四郎」	北海学園大学 地域連携推進機構	7月12日	北海学園大学豊平キャンパス
協力(参加)	ゴールドデンカムイスタンプラリー	公益社団法人 北海道観光振興機構	8月19日~3月31日	北海道博物館
協力・出展	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2018	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2018 実行委員会	10月6日	札幌市青少年科学館
共同主催	「北海道150年」記念シンポジウム	朝日新聞北海道支社、北海道博物館、HTB 北海道テレビ放送	10月13日	札幌市民交流プラザ
名義後援	アイヌ民族文化祭 2018	北海道アイヌ協会	10月20日	標津町生涯学習センター「あすばる」
共催	北の みゆげふえす	北のミュージアム活性化実行委員会	10月28日	北海道博物館
協力	三重県高校生スイーツコンテスト	NPO 法人クロスポイント	11月3日	三重県総合博物館
協力	特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」	松浦武四郎展実行委員会	12月15日~2月11日	北海道立帯広美術館
協力	科目「生涯学習論」におけるフィールドワーク	苫小牧駒澤大学	2月14日	北海道博物館
共催・協力	平成30年度第2回研究協議会	日本博物館協会	3月7日~3月8日	北海道博物館
共催・協力	第33回クマガワ一斉調査	野幌森林公園を守る会	3月10日	北海道博物館
協力	赤い羽根共同募金厚別区オリジナルピンバッジの作成	札幌市厚別区共同募金委員会	—	—

(2) 学会及び研究会との交流

平成30年度の学会や研究会との交流(1件)

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
共催	北海道民族学会 2018年度第2回研究会	北海道民族学会	11月24日	北海道博物館

(3) 国・都道府県・市町村等との連携

平成30年度の都道府県・市町村との連携(8件)

種別	市町村名	事業名	主催団体等	開催日	会場
参画	三笠市	三笠ジオパーク推進協議会	三笠市役所商工観光課地域開発・ジオパーク推進係	—	—

協力	松阪市(三重県)	松阪市 PR 事業	松阪市	2018年6月30日	北海道博物館
協力	三重県	第21回企画展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」	三重県総合博物館	2018年9月15日～11月11日	三重県総合博物館
共催・出展	北海道	札幌啓成高校 SSH in 光の広場	北海道札幌啓成高等学校SSH推進部	2018年10月8日	新さっぽろサンピアザ光の広場
協力	国	北方四島在住の歴史文化専門家受入れ事業	外務省欧州局ロシア課	2018年10月10日～10月17日	根室市ほか
協力	国	調査視察の受入	国立科学博物館	2018年10月16日	北海道博物館
共催・協力	北海道ほか	北海道化石フェスト'2019	北海道恐竜・化石ネットワーク研究会	1月13日	北海道博物館
協力	浜頓別町	漂着物をテーマとした企画展	浜頓別町教育委員会	(実施は次年度)	

(4) 外部団体等の研修への協力

平成30年度の外部団体への研修協力(7件)

種別	事業名	主催者	対応者	実施日	場所
研修	旭化成ホーム企業研修	旭化成ホーム	—	2018年6月12日	北海道開拓の村
研修	平成30年度初任段階教員研修	北海道教育委員会(北海道教育庁石狩教育局教育支援課)	社会貢献グループ	2018年7月25日～27日	北海道博物館
研修	伝承者育成事業	公益財団法人アイヌ民族文化財団	大谷洋一 遠藤志保	2018年8月3日	北海道博物館
研修	札幌市中央図書館職員研修	札幌市中央図書館	三浦泰之	2018年11月24日	
研修	北海道金融広報アドバイザー研修	北海道金融広報委員会	三浦泰之	2018年11月24日	日本銀行札幌支店
研修	解説員研修	北海道立北方民族博物館	甲地利恵、 道民サービスグループ	2019年1月17日	北海道博物館
研修	ボランティア・レンジャー(自然解説員)レベルアップ研修会	北海道ボランティア・レンジャー協議会	水島未記	2019年2月17日	

当館職員が委嘱を受けた各種委員等

(1) 各種委員等

平成 30 年度の各種委員への就任(28 件)

所属研究グループ	氏名	委嘱内容等	期間
学芸部長	舟山直治	小樽市歴史文化基本構想策定委員会 委員	2016年8月26日～2019年3月31日
		文化庁文化財部調査員	2018年6月1日～2019年3月31日
		北海道遺産第3回選定外部審査員	2018年7月
		小樽市文化財審議会 委員	2017年11月1日～2019年10月31日
自然研究グループ	水島未記	公益財団法人北海道新聞野生物質基金 評議員	2018年6月8日～2022年6月
歴史研究グループ	右代啓視	人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター推進評議会 委員	2016年6月24日～2019年3月31日
		江別市文化財保護委員会 委員	2016年8月1日～2018年7月31日
		開拓の村旧寮舎展示企画委員会委員	2018年12月15日～2019年3月31日
	三浦泰之	石狩市文化財保護審議会 委員	2016年5月1日～2018年4月30日
		旧島松駅通所保存活用計画策定会議委員	2018年9月30日～2019年8月
	東 俊佑	計 1 件	
生活文化研究グループ	会田理人	別海町史跡旧奥行白駅通所整備検討委員会 委員	2018年4月26日～2020年3月31日
		開拓の村旧寮舎展示企画委員会委員	2018年12月15日～2019年3月31日
博物館研究グループ	堀 繁久	野幌自然環境モニタリング検討会委員	2017年4月1日～2019年3月31日
		北海道スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員	2017年7月5日～2020年3月31日
		北海道希少野生動植物種保護対策検討有識者会議 昆虫専門部会構成員	2018年5月8日～2019年3月31日
		北海道遺産第3回選定外部審査員	2018年7月
アイヌ民族文化研究センター ・アイヌ文化研究グループ	小川正人	「北海道史編さん事業」有識者懇談会構成員	2017年6月～2019年11月
		国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会委員	2018年5月10日～2020年3月31日
		「北海道史編さん委員会」専門委員	2018年6月8日～2020年6月8日
		北海道立北方民族博物館研究協力員	2018年7月24日～2022年3月31日
		平成30年度危機的な状況にある言語・方言に関する研究協議会委員	2018年8月14日～2019年3月31日
	甲地利恵	北海道立北方民族博物館資料収集評価委員会 委員	2017年5月1日～2019年3月31日
札幌市歴史文化基本構想策定委員会 委員		2018年3月1日～2019年3月31日	
北海道立北方民族博物館研究協力員		2018年7月24日～2022年3月31日	
大坂 拓	国立アイヌ民族博物館展示備品製作業務に関するアドバイザー	2018年8月17日～2019年3月31日	

(2) 非常勤講師

平成 30 年度の非常勤講師への就任(9 件)

所属研究グループ	委嘱者	大学名	講義内容	期間
自然研究グループ	添田 雄二	北海道教育大学岩見沢校	自然科学入門 I	2018年4月9日～2018年9月30日
	表 溪太	北海道大学	ヒグマ学入門	2018年9月27日～2019年2月28日
歴史研究グループ	右代啓視	東海大学	博物館展示論、博物館実習 I	2018年4月1日～2019年3月31日
		北海道教育大学札幌校	考古学(前期)	2018年4月1日～2019年3月31日
	三浦泰之	札幌大学	博物館展示論	2018年4月6日～2018年9月12日
	東 俊佑	北海学園大学	博物館教育論	2018年9月20日～2019年3月19日

生活文化研究グループ	池田 貴夫	札幌市立大学	寒冷地生活支援看護学特論	2018年4月1日～2019年3月31日
		北海学園大学	博物館実習Ⅲ(前期)	2018年4月1日～2018年9月30日
博物館研究グループ	栗原 憲一	北海学園大学	博物館実習Ⅲ(後期)	2018年9月20日～2019年3月19日

(3) その他、学芸職員への学術的な協力依頼(専門的な知見や情報の提供等)

平成30年度の学術的な協力(33件)

【自然研究グループ(6件)】

氏名	種別	協力内容	事業名	依頼先	期間
水島 未記 表 溪太	指導助言	学習指導等	総合的な学習の時間「Future Vision」	札幌啓成高等学校	2018年4月～ 2019年2月
水島 未記	指導助言	展示制作の監修・協力	トドックエコステーション2	生活協同組合コープさつ ぼろ	2018年8月～ 2019年6月
水島 未記	指導助言	フィールド研究に関する アドバイザー	科学部フィールド研究「ヒメザゼンソウの生 態研究」	札幌啓成高等学校	2018年5月～ 2019年3月
圓谷 昂史	指導助言	実行委員会への参加	「地質の日」記念展「北海道のジオサイトに 見る岩石」	「地質の日」記念展実行 委員会・北海道大学総 合博物館	2018年4月～ 2018年6月
圓谷 昂史	指導助言	国際科学オリンピック(地 学)に向けての学習指導等	SSH「数理・科学チャレンジ サマーキャン プ2018」	立命館慶祥高等学校	2018年8月7日～ 9日
圓谷 昂史	指導助言	資料搬送立会、展示設 営・解体指導解説文等 執筆、図表等の作成	忠類ナウマン象記念館開館30周年記念 事業 特別展「北海道の大氷河時代を生 きた動物たち」	幕別町教育委員会	2018年10月4日 ～11月6日

【歴史研究グループ(11件)】

氏名	種別	協力内容	事業名	依頼先	期間
右代 啓視	指導助言	復元竪穴式住居現地 指導の改修指導	天塩川口遺跡群史跡整備にかかる現地 指導	天塩町	2018年4月、8月
右代 啓視	指導助言	ツアーのナビゲーター (訪問先での解説等)	縄文遺跡群ツアー「北海道博物館と空知 の縄文遺跡群を観る」	江別市教育委員会	2018年6月9日
右代 啓視 鈴木 琢也	協力	北方四島からの歴史文 化専門家受入れにとも なう同行	北方四島からの歴史文化専門家受入れ	外務省欧州局ロシア課	2018年10月11日 ～16日
右代 啓視	指導助言	目梨泊遺跡出土資料調 査・分析にかかる指導	目梨泊遺跡資料調査	枝幸町教育委員会	2019年3月3日～ 5日
右代 啓視	協力	文化資源プロジェクト審 査	平成31年度国立民族学博物館文化資源 プロジェクト	国立民族学博物館	2019年1月18日 ～3月31日
三浦 泰之	トークショ ー出演	(北海道150年)	創世スクエア HTBまつり トークショー	北海道テレビ放送	2018年10月13日
三浦 泰之	テレビ出 演(録画)	(北海道150年)	北海道150年特別番組「へえ～！ほお～！ 150年 あなたと選ぶ重大ニュース 第2弾」	北海道テレビ放送	2018年11月8日
三浦 泰之	指導助言	展示設営指導・展示解 説、展示撤収指導、資 料返却	北海道立帯広美術館特別展「幕末維新を 生きた旅の巨人 松浦武四郎」	松浦武四郎展実行委員 会	2018年12月、 2019年1月、2月
三浦 泰之	指導助言	現地指導	寿都高校ボランティア部と共働した橋本家 古文書整理	寿都町教育委員会	2018年12月25日 ～27日
鈴木 琢也	指導助言	ツアーのナビゲーター (訪問先での解説等)	縄文遺跡群ツアー「帯広・富良野の縄文を 観る」	北海道・北東北の縄文 遺跡群の世界遺産登録 をめざす道民会議	2018年9月8日

鈴木 琢也	調査協力	札幌市埋蔵文化財センター・千歳市埋蔵文化財センターにおける資料調査	科研費「官衙機構の動態からみた古代日本における境域の特質」の調査への協力	国立歴史民俗博物館	2019年2月1日
-------	------	-----------------------------------	--------------------------------------	-----------	-----------

【生活文化研究グループ(5件)】

氏名	種別	協力内容	事業名	依頼先	期間
池田 貴夫	指導助言	静岡県立浜松南高校教育アドバイザー	北海道教育旅行活性化事業	公益社団法人北海道観光振興機構	2018年7月5日
池田 貴夫	指導助言	兵庫県立篠山産業高校教育アドバイザー	平成30年度北海道教育旅行活性化事業	海道教育旅行活性化事業コンソーシアム	2019年1月16日
池田 貴夫	指導助言	大阪府立清水谷高校教育アドバイザー	平成30年度北海道教育旅行活性化事業	海道教育旅行活性化事業コンソーシアム	2019年2月12日
池田 貴夫	指導助言	講演「クイズで知る！北海道雑学」	北海道教育旅行説明会高松会場	海道教育旅行活性化事業コンソーシアム	2019年2月22日
会田 理人 尾曲 香織	指導助言	企画展示「北海道科学大学博物館」展示アドバイス・協力	北海道科学大学 北海道150年事業「北海道科学大学博物館 ～北科大で自由研究～」	北海道科学大学博物館	2018年7月27日 ～8月10日

【博物館研究グループ(8件)】

氏名	種別	協力内容	事業名	依頼先	期間
堀 繁久	指導助言	事後調査アドバイザー	北海道新幹線環境影響評価	北海道	
堀 繁久	指導助言	学習指導等	総合的な学習の時間「Future Vision」	札幌啓成高等学校	2018年4月～ 2019年2月
栗原 憲一	指導助言	会議参加・助言	SDGsを活用したジオパークのコンセプト理解促進プログラム開発事業キックオフ会議	環境省北海道環境パートナーシップオフィス	2018年6月7日
栗原 憲一	指導助言	国際科学オリンピック(地学)に向けての学習指導等	SSH「数理・科学チャレンジ サマーキャンプ2018」	立命館慶祥高等学校	2018年8月7日～ 9日
栗原 憲一	指導助言	講師・実証結果の検証等への協力	SDGsを活用したジオパークのコンセプト理解促進プログラム開発事業プログラム実証	環境省北海道環境パートナーシップオフィス	2018年9月～ 2019年3月
栗原 憲一	指導助言	岩石・鉱物・化石などの鑑定	石・鉱物・化石のお宝鑑定会2018	日高町教育委員会	2018年11月18日
栗原 憲一	指導助言	展示アドバイザー	ジオパーク関連展示	NPO 法人日本ジオパークネットワーク	
鈴木あすみ	意見交換	研究会への出席と意見交換	フォーラム型情報ミュージアム アイヌ資料データベースに関する研究会	国立民族学博物館	2019年3月22日 ～23日

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(3件)】

氏名	種別	協力内容	事業名	依頼先	期間
小川 正人	意見交換	研究会への出席と意見交換	共同研究「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」第3回研究会	国立歴史民俗博物館	2018年10月28日
遠藤 志保	指導助言	会議への出席と指導助言	アイヌ語アーカイブ及びアイヌ語アーカイブ人材育成事業の監修・協力者会議	公益財団法人アイヌ民族文化財団	2019年2月5日
大坂 拓 亀丸由紀子	意見交換	研究会への出席と意見交換	フォーラム型情報ミュージアム アイヌ資料データベースに関する研究会	国立民族学博物館	2019年3月22日 ～23日

8 広報

当館の役割や事業、調査研究の成果や資料情報などを知っていただくため、マスメディアや印刷物、インターネットなどを活用した広報活動を行っています。そうした広報活動には、当館を利用するすべての人が自らの興味や関心によって楽しみながら学べるための支援や、道民や一般企業などによる各種事業への参画や協働を促進し、地域に支えられる博物館づくりの裾野を広げていくという側面もあります。

報道機関等への対応

新聞

新聞への掲載実績は、平成30年度は220件でした。

特別展の開催にあたって展示内容を紹介する記事が数多く掲載されたほか、イベントに関する情報が地元情報誌の「まんまる新聞」に定期的に掲載されるなどしました。

雑誌

雑誌への掲載実績は、平成30年度は30件でした。

当館の施設紹介記事のほか、特別展の開催にあたって展示内容を紹介する記事が多く掲載されました。

テレビ

テレビでの報道実績は、平成30年度は31件でした。

6月から8月にかけて開催した第4回特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」の期間中に、多くの報道や番組放送で取り上げられました。

ラジオ

ラジオでの報道実績は、平成30年度は4件でした。

特別展および企画テーマ展の内容の紹介として、当館の職員が出演して話をする放送がありました。

その他

その他、平成30年度には北海道の観光案内本などの単行本への掲載が7件、webサイトへの掲載が133件、その他広告などが13件ありました。

学術的な情報や知見の提供

平成30年度の学術的な情報や知見の提供(110件)

【学芸部長(1件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
舟山直治	川すそ祭り	神戸新聞 2018年8月26日 朝刊	神戸新聞社	協力

【自然研究グループ(16件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
添田雄二	1663年有珠山噴火 火砕流でアイヌ集落壊滅	読売新聞 2018年5月3日	読売新聞社	協力
添田雄二	17世紀アイヌ カブ栽培	読売新聞 2018年6月1日	読売新聞社	協力
添田雄二	17世紀地層が語るアイヌ民族の暮らし	北海道新聞 2018年10月14日	北海道新聞社	協力
添田雄二	1640~63年の住居か、カムイタブコブ下遺跡に複数の柱穴	室蘭民報 2018年10月20日	室蘭民報	協力
添田雄二	巨大噴火と津波の痕跡 北海道博物館がバス見学会を企画	Sunday 世界日報 2018年11月4日	世界日報社	協力

添田雄二	アイヌ住居跡 漆と磁器 伊達、セットで発見 生活文化解明へ	読賣新聞 2019年1月1日	読賣新聞社	協力
添田雄二	江戸以前のアイヌ住居 伊達、模型で復元 近代と異なる構造	読賣新聞 2019年3月2日	読賣新聞社	協力
添田雄二	500年前のアイヌ住居初復元 明治以降と異なる構造 伊達噴火湾研究所が模型	北海道新聞 2019年3月3日	北海道新聞社	協力
添田雄二	アイヌ集落被災の歴史を知る	おはよう北海道 2019年3月11日	NHK	協力
添田雄二	500年前のチセ模型を初公開	北海道新聞 2019年3月11日	北海道新聞社	協力
添田雄二	伊達 津波跡から身近な災害学ぶ	北海道 NEWS WEB 2019年3月12日	NHK NEWS WEB	協力
添田雄二	400年前の痕跡に津波実感 伊達・有珠小の児童、地層調べ	朝日新聞 2019年3月12日	朝日新聞社	協力
添田雄二	有珠で根菜類栽培 アイヌ民族の生活紹介	室蘭民報 2019年3月12日	室蘭民報	協力
表 漢太	とりの野生 冬支度 夜にゴソゴソ エソタヌキ	北海道新聞 2018年11月15日夕刊	北海道新聞社	協力
圓谷昂史	130 海岸調査 漂着物は語る	朝刊 2019年2月13日	朝日新聞社	協力
圓谷昂史	私の研究～北海道の海岸漂着物～	札幌人図鑑 2019年3月6日	J:COM	出演

【歴史研究グループ(78件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
右代啓視	風の色・北の道 国後を望む 海峡の朝 共生に願い	北海道新聞 2018年6月25日	北海道新聞社	協力
右代啓視	「ビザなし」も根室帰港	北海道新聞 2018年7月24日	北海道新聞社	協力
右代啓視	新たに6軒の堅穴住居跡 国後島で学術調査	釧路新聞 2018年7月24日	釧路新聞社	協力
右代啓視	ビザなし訪問団 62人択捉島へ	毎日新聞 2018年9月15日	毎日新聞社	協力
右代啓視	ビザなし訪問団 根室帰港	北海道新聞 2018年9月18日	北海道新聞社	協力
右代啓視	学術訪問団 紗那郵便局跡地で2000年前の土器片発見	釧路新聞 2018年9月18日	釧路新聞社	協力
右代啓視	紗那郵便局跡地に遺跡確認 学術訪問団続縄文土器を採取	根室新聞 2018年9月18日	根室新聞社	協力
右代啓視	択捉・老朽化で解体の紗那郵便局跡地 続縄文時代の土器片出土	毎日新聞 2018年9月19日	毎日新聞社	協力
右代啓視	金色の刀 輝く大発見	北海道新聞 2018年10月4日 夕刊	北海道新聞社	協力
右代啓視	北海道博物館 四島の未来に何を伝えるか 17日公開シンポジウム 釧路博物館で	根室新聞 2018年11月12日	根室新聞社	協力
右代啓視	北方領 先史文化を相互理解	読売新聞 2018年11月15日	読売新聞社	協力
右代啓視	四島の歴史、文化遺産を伝える 釧路で初 専門家ら一般向けシンポ	釧路新聞 2018年11月18日	釧路新聞社	協力
右代啓視	北方四島 文化遺産を後世に 道博物館 釧路市でシンポ	毎日新聞 2018年11月18日	毎日新聞社	協力
右代啓視	四島の歴史文化 継承を 釧路市博物館でシンポ	北海道新聞 2018年11月18日	北海道新聞社	協力
右代啓視	四島の歴史文化遺産テーマ 8日に公開シンポジウム 北海道博物館と市教委共催	根室新聞 2018年12月4日	根室新聞社	協力
右代啓視	四島の歴史文化を考える 北海道博物館 8日に根室でシンポ	釧路新聞 2018年12月4日	釧路新聞社	協力
右代啓視	四島の歴史や文化考察 根室で8日シンポ学芸員らが報告	北海道新聞 2018年12月5日	北海道新聞社	協力
右代啓視	択捉に松前藩士の墓 対露警備責任者らか	毎日新聞 2018年12月3日	毎日新聞社	協力
右代啓視	択捉に松前藩士の墓 厳寒の島 過酷な任務	毎日新聞 2018年12月5日	毎日新聞社	協力
右代啓視	四島の遺産 歴史から考察 根室でシンポ調査の学芸員ら報告	北海道新聞 2018年12月9日	北海道新聞社	協力
右代啓視	北方四島の遺跡調査成果を紹介 道博物館シンポ	読売新聞 2018年12月9日	読売新聞社	協力
右代啓視	四島の歴史文化遺産 シンポ専門家交流の成果発表	根室新聞 2018年12月12日	根室新聞社	協力
右代啓視	四島の文化遺産シンポ詳細 調査の成果専門家報告	北海道新聞 2018年12月11日	北海道新聞社	協力
右代啓視	択捉に弘前、松前藩士の墓も 北辺警備の武士の可能性	毎日新聞 2018年12月11日	毎日新聞社	協力
右代啓視	領土遺産一元化的に保存 道博物館らシンポ 戦前の資料後世へ	釧路市新聞 2018年12月14日	釧路新聞社	協力
右代啓視	択捉に戦前の漁業権基点	北海道新聞 2019年1月9日	北海道新聞社	協力
右代啓視	領土の遺跡保全	北日本新聞 2019年3月29日	北日本新聞	協力
三浦泰之	地域研究レポート 幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎	My 舎人倶楽部 22 2018年4月1日号	敬文舎	寄稿
三浦泰之	北の大地と民を守れ! 松浦武四郎・北海道の名付け親	英雄たちの選択【地上波再放送】	NHK 札幌放送局	出演
三浦泰之	「北海道」の名付け親、松浦武四郎を忘れない(1) 北海道博物館 学芸主幹三浦泰之さん	カーピアセロム 2018/4+5 陽春号	イベント工学研究所	協力

三浦泰之	歴史は続くよ 恵みの浜に～石狩湾～	北海道中ひざくりげ 松浦武四郎スペシャル	NHK 札幌放送局	出演
三浦泰之	特別寄稿 幕末維新を生きた旅の巨人、松浦武四郎、青年期の旅	北海道エアシステム機内誌 HAC MAGAZINE 2018/5-2018/6	北海道エアシステム	寄稿
三浦泰之	武四郎の足跡 行動力に驚き 道博物館の三浦氏講演	北海道新聞(上川地方版) 2018年5月20日	北海道新聞社	協力
三浦泰之	幕末の北方探検家松浦武四郎生誕200年 かの地へ。	鶴雅まろうど特別号 北海道命名150周年 松浦武四郎企画	鶴雅グループ	協力
三浦泰之	扁額署名は武四郎真筆 岩内町郷土館所蔵 筆跡から鑑定	北海道新聞 2018年6月1日	北海道新聞社	協力
三浦泰之	「北海道」の名付け親、松浦武四郎を忘れない(2) 北海道博物館 学芸主幹三浦泰之さん	カーピアセロム 2018/6+7 新緑号	イベント工学研究所	協力
三浦泰之	冒険の旅に出たい! ～松浦武四郎 人生をワクワクさせる極意	先人たちの底力 知恵泉【地上波再放送】	NHK 札幌放送局	出演
三浦泰之	松浦武四郎の直筆扁額展示 北海道で保存 記念館が「真筆」	朝日新聞(三重版) 2018年6月16日	朝日新聞社	協力
三浦泰之	北海道命名150年、生誕200年 松浦武四郎が旅した上川地方	HO 2018.7月号 vol.128	ぶらんとマガジン社	協力
三浦泰之	ふるさとの街 宝探して～安田頭が行く室蘭～	北海道中ひざくりげ 松浦武四郎スペシャル	NHK 札幌放送局	協力
三浦泰之	北海道の名付け親 松浦武四郎を訪ねて	北海道新聞 北海道150年広告特集 2018年7月14日	北海道新聞社	協力
三浦泰之	「全国知事会議」前に…高橋知事と三重県の鈴木知事 北海道博物館視察	UHB ニュース	UHB 北海道文化放送	協力
三浦泰之	武四郎を追って 北海道博物館特別展から①「旅の巨人」の素顔 根気、ひとくせ…個性強烈	北海道新聞夕刊 2018年8月3日	北海道新聞社	寄稿
三浦泰之	武四郎評した古文書注目 札幌で展示 蝦夷地でも変わり者	読売新聞(北海道版) 2018年8月9日	読売新聞社	協力
三浦泰之	ブギウギ銅像見聞録～幕末維新英雄伝～ 第4弾 松浦武四郎編①	ブギウギ専務	STV 札幌テレビ放送	出演
三浦泰之	ブギウギ銅像見聞録～幕末維新英雄伝～ 第4弾 松浦武四郎編②	ブギウギ専務	STV 札幌テレビ放送	出演
三浦泰之	新・北の美 78 松浦武四郎「丁亥後記」	季刊北方圏 第183号	北海道国際交流・協力総合センター	寄稿
三浦泰之	KAI:THE VIRGIN LANDSCAPE	ANA グループ機内誌 翼の王国 2018年8月号 No.590	ANA	協力
三浦泰之	「北海道」の名付け親、松浦武四郎を忘れない(3) 北海道博物館 学芸主幹三浦泰之さん	カーピアセロム 2018/8+9 盛夏号	イベント工学研究所	協力
三浦泰之	北海道命名150年目を迎えた今、松浦武四郎に学ぶこと【コラムリレー 第12回】	北海道150年、学芸員にはどう見える?	北海道博物館協会学芸職員部会 HP	寄稿
三浦泰之	史書を訪ねて 西蝦夷日誌 北海道・積丹	読売新聞夕刊 2018年9月25日	読売新聞社	協力
三浦泰之	大地の恵みと共に生きる～十勝～	北海道中ひざくりげ 松浦武四郎スペシャル	NHK 札幌放送局	協力
三浦泰之	収集家の武四郎紹介する報告会	NHK 東海 NEWS WEB	NHK 津放送局	出演
三浦泰之	武四郎「好古家」の一面も…津で研究報告会	YOMURI ONLINE	読売新聞社	出演
三浦泰之	武四郎の晩年に迫る 生誕200年 東京でシンポ	北海道新聞 2018年10月7日付	北海道新聞社	協力
三浦泰之	炎の足跡 ～松浦武四郎生誕200年～	炎の足跡 ～松浦武四郎生誕200年～	三重テレビ放送	出演
三浦泰之	「創世スクエア HTBまつり」14日まで	HTB ニュース	HTB 北海道テレビ放送	協力
三浦泰之	水の宝は心も潤す～道東・水辺の旅～	北海道中ひざくりげ 松浦武四郎スペシャル	NHK 札幌放送局	協力
三浦泰之	時を訪ねて 本願寺道路の開通 中山峠など	北海道新聞 日曜ナビ 2018年10月28日	北海道新聞社	協力
三浦泰之	一畳敷の世界を探究する	ICU OpenCourseWare	国際基督教大学	出演
三浦泰之	武四郎 新冠も3回訪問 道博物館学芸員 探検の足跡紹介	北海道新聞(苫小牧・日高版) 2018年11月19日	北海道新聞社	協力
三浦泰之	知の達人たち 松浦武四郎、魅力掘り起こす 三浦泰之さん	朝日新聞(道内版) 2018年11月27日	朝日新聞社	協力
三浦泰之	武四郎の功績紹介 北海道博物館・三浦氏が講演 道新政経懇	北海道新聞(釧路・根室版) 2018年11月30日	北海道新聞社	協力
三浦泰之	「武四郎の生涯」中標津で講座	北海道新聞夕刊(釧路・根室版) 2018年12月3日	北海道新聞社	協力
三浦泰之	武四郎展 あす開幕 帯広美術館で 道博物館の学芸員「資料見せる空間」	十勝毎日新聞 2018年12月14日	十勝毎日新聞社	協力

三浦泰之	一疊敷がつなぐ縁 松浦武四郎と明治知識人の系譜 国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館	人間会議 2018 冬	事業構想大学院大学出版部	協力
三浦泰之	へえ！ほお〜！北海道 150 年 あなたと選ぶ重大ニュース 第 2 弾	へえ！ほお〜！北海道 150 年 あなたと選ぶ重大ニュース 第 2 弾	HTB 北海道テレビ放送	出演
三浦泰之	語る 伝える 講演から北海道博物館学芸主幹三浦泰之さん 道新釧根政経文化懇話会「幕末維新を生きた旅の巨人・松浦武四郎の生涯」	北海道新聞(釧路・根室版) 2018 年 12 月 25 日	北海道新聞社	協力
三浦泰之 栗原憲一	松浦武四郎が見たアンモナイトの種類は何?【コラムレー第 20 回】	北海道 150 年、学芸員にはどう見える?	北海道博物館協会学芸職員部会 HP	寄稿
三浦泰之	松浦武四郎展 2 月 11 日(月)(祝)まで 武四郎研究の出発点に 道博物館の三浦さん講演	十勝毎日新聞 2019 年 1 月 15 日	十勝毎日新聞社	協力
三浦泰之	松浦武四郎展 2 月 11 日(月)(祝)まで「再び楽しめる内容に」掛け軸や書簡、展示がらり	十勝毎日新聞 2019 年 1 月 16 日	十勝毎日新聞社	協力
三浦泰之	言葉ファイルワイド 北海道博物館学芸主幹三浦泰之さん 道新釧根政経文化懇話会「幕末維新を生きた旅の巨人・松浦武四郎の生涯」	北海道新聞(十勝帯広版) 2019 年 1 月 17 日	十勝毎日新聞社	協力
三浦泰之	いこしえの道にめぐり探して〜旭川・富良野	北海道中ひざくりげ 松浦武四郎スペシャル	NHK 札幌放送局	協力
三浦泰之	厳寒もホッとあったか オホーツク	北海道中ひざくりげ 松浦武四郎スペシャル	NHK 札幌放送局	協力
三浦泰之	海と山 武四郎から託されて〜江差	北海道中ひざくりげ 松浦武四郎スペシャル	NHK 札幌放送局	協力
鈴木琢也	北の文化 道内初公開の大首飾り ―古物を後世に武四郎の思い―	朝日新聞 2018 年 6 月 30 日朝刊	朝日新聞社	寄稿
鈴木琢也	武四郎を追って 北海道博物館特別展から② 熱心な「好古家」旅のなかで記録、蒐集―	北海道新聞 2018 年 8 月 8 日夕刊	北海道新聞	寄稿
東俊佑	アイヌ民族の交易	HBC 北海道命名 150 年記念特別番組	HBC フレックス	協力

【生活文化研究グループ(5 件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
池田貴夫	日本における除雪具の変遷	北海道新聞 2019 年 1 月 31 日朝刊	北海道新聞社	協力
池田貴夫	北海道 150 年のくらしの変遷―特に衣生活と住生活について―	朝日新聞 (掲載日不明)	朝日新聞社	協力
池田貴夫	背負子の普及について	テレビ朝日「かえでマンデーみつけたい」	テレビ朝日	協力
池田貴夫	石炭ストーブの値段について	テレビ東京「シャッター開けてみた」	テレビ東京	協力
青柳かつら	高齢者と博物館による地域文化の記録保存	北海道新聞 2018 年 6 月 22 日夕刊	北海道新聞社	寄稿

【博物館研究グループ(9 件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
堀繁久	北の虫から① ダイコクコガネ	北海道新聞夕刊 2018/7/25	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から② ミンミンゼミ	北海道新聞夕刊 2018/8/29	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から③ ナツアカネ	北海道新聞夕刊 2018/9/26	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から④ コナラシギゾウムシ	北海道新聞夕刊 2018/10/24	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から⑤ チャバネフコエダシヤク	北海道新聞夕刊 2018/11/28	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から⑥ クモガタガガンボ	北海道新聞夕刊 2018/12/26	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から⑦ ジョウザンミドリシジミ越冬卵	北海道新聞夕刊 2019/1/23	北海道新聞社	寄稿
杉山智昭	挑戦は続く、どこまでも ～文化財保存修復学会 第 40 回大会に参加して～	文化財保存修復学会通信	文化財保存修復学会	寄稿
鈴木明世	寒冷積雪とともに生きる、北海道	道具学会 NEWS 66 号	道具学会	寄稿

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(1 件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
遠藤志保	武四郎を追って 北海道博物館特別展から④ アイヌ語を学ぶ	北海道新聞 2018 年 8 月 16 日夕刊	北海道新聞社	寄稿

広報誌の発行(ちゃれんがニュース)

講演会や講座などの各種普及行事、展示会、館の動きなどの活動全般を定期的に発信することを目的に、年4回『森のちゃれんがニュース』を発行しています。道内外の博物館や教育機関、公共施設、研究機関などに送付しているほか、館内に配置して、来館者が自由に持ち帰ることができるようにしています。

平成30年度のちゃれんがニュース

巻 号	発行日	内 容	執 筆 等
12号	2018年7月27日	第11回企画テーマ展『野幌森林公園いきもの図鑑』を開催	—
		収蔵資料紹介「亜麻150年の歴史とバイオリン播種器」	山際秀紀
		総合展示室の資料紹介/第1テーマ「北海道初のナウマンゾウの足跡化石」	添田雄二
		研究活動紹介「誰かの『あたりまえ』を聞き、書き、伝える」	尾曲香織
		トピックス「ワークシート開発プロジェクト始動！」	東 俊 佑
		トピックス「より利用しやすくなった北海道開拓の村」	会 田 理 人
		アイヌ民族文化研究センターだより「公開研究報告会『余市のアイヌ文化を考える』を開催しました」	小川正人
		活動ダイアリー/人事異動/来館者数	—
13号	2018年10月19日	第4回特別展『幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎—見る、集める、伝える—』を開催	—
		収蔵資料紹介「あれから50年—久保寺逸彦最晩年のしごと—」	田村雅史
		展示/イベント協力「北海道博物館の資料やノウハウが、場所を変えて活躍しています」	—
		研究活動紹介「歴史的建造物を保存する野外博物館『北海道開拓の村』」	村上孝一
		トピックス「春のイベント at はっけん広場」	山田日登美
		トピックス「北海道博物館特別展×メッセチュールロイヤルホテル コラボ企画『北海道の名付け親・松浦武四郎ランチ～大地の味～』」	杉山智昭
		アイヌ民族文化研究センターだより「アイヌ文化巡回展を上川町(層雲峡)と標津町で開催しました」	小川正人
		活躍ダイアリー/館長メッセージ/来館者数	—
14号	2018年12月28日	第12回企画テーマ展『りんご農家の道具』を開催	—
		収蔵資料紹介「身近な自然の多様性を語る植物標本」	水島未記
		総合展示室の資料紹介/第3テーマ「冬山造材を支えた道具『サツエ』」	青柳かつら
		研究活動紹介「もう一つの歴史・文化の道 —北海道から千島列島、カムチャツカへ—」	右代啓視
		トピックス「はっけん広場のイベントで、秋を満喫！」	折館里佳
		トピックス「ロシア、カナダの博物館との交流事業が進行中です」	青柳かつら
		アイヌ民族文化研究センターだより「アイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソ』増刷します」	小川正人
		活動ダイアリー/人事異動/来館者数	—
15号	2019年3月26日	第13回企画テーマ展『アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ —博物館のはたす役割—』を開催	—
		収蔵資料紹介「古文書が語る松前藩政期の商場交易」	東 俊 佑
		展示/イベント協力「北海道博物館の資料やノウハウが、場所を変えて活躍しています」	—
		研究活動紹介「民具を通じてアイヌ民族の近現代を考える」	大坂 拓
		トピックス「冬のはっけんイベント 大好評」	福島奈緒子
		トピックス「国立科学博物館・巡回ミュージアム『生命のれきし』を開催」	濱村伸治氏
		アイヌ民族文化研究センターだより『清野写真館旧蔵写真』その後	小川正人
		活躍ダイアリー/来館者数	—

ホームページ(URL: <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>)

利用案内や総合展示の概略の紹介のほか、企画展やイベント情報などを提供しています。その他に、利用者の知的興味に応えるため、収蔵資料検索や「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」といった学びに関するページも設置しています。



ホームページのトップ画面

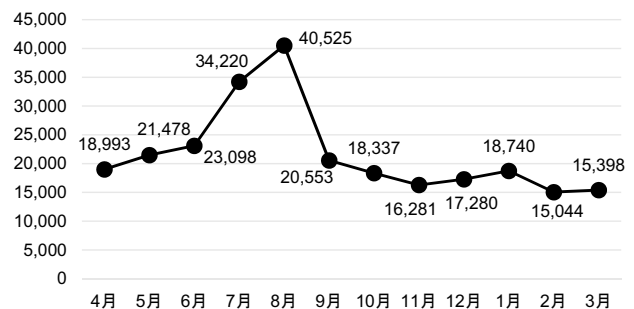


収蔵資料検索システム画面(検索条件:「美術」)

平成 30 年度のホームページアクセス件数

4月	18,993	11月	16,281
5月	21,478	12月	17,280
6月	23,098	1月	18,740
7月	34,220	2月	15,044
8月	40,525	3月	15,398
9月	20,553	合計	259,947
10月	18,337	月平均	21,662

アクセス数の推移



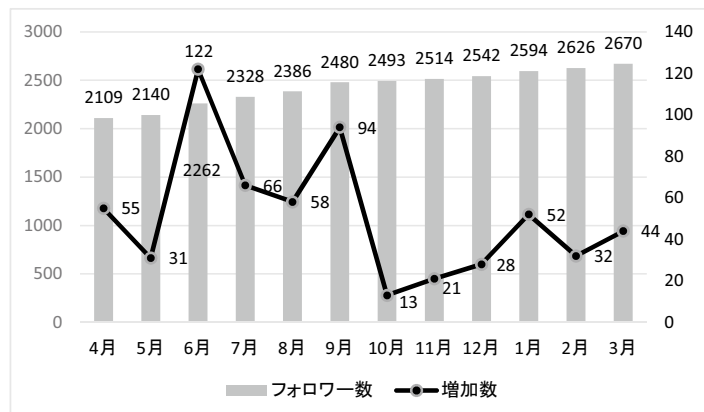
ソーシャルメディア

情報提供の迅速性と拡散性にすぐれたソーシャルメディアとして、ツイッターを使って幅広い情報発信を行っています。

公式ツイッターアカウント: @Hokkaido_Museum

平成 30 年度のツイッター フォロワー数

4月	2,109	10月	2,493
5月	2,140	11月	2,514
6月	2,262	12月	2,542
7月	2,328	1月	2,594
8月	2,386	2月	2,626
9月	2,480	3月	2,670



出版活動

調査研究をはじめとする博物館活動の成果を伝えるため、また博物館の展示などをわかりやすく伝えるため、さまざまな刊行物を編集・発行しています。これらの出版物は、総合展示場の地下階にある図書室に配置するとともに、国立国会図書館、全国の都道府県立図書館、北海道内の公共図書館などに寄贈しています。また、総合展示ガイドブック『ビジュアル北海道博物館』や特別展の図録など、出版物の一部は館内のミュージアムショップ（011-898-0466）にて販売しているほか、『北海道博物館研究紀要』と『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』については、北海道庁内の「行政情報センター」（011-204-5222）で購入できます。（品切れのものもございますので、お買い求めの際はお電話にてご確認ください）

平成 30 年度に出版した刊行物

刊行物名称	発行日	判型	頁数	発行部数
北海道博物館研究紀要 第 4 号	2019 年 3 月	A4 判	198	1,100
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第 4 号	2019 年 3 月	A4 判	144	1,100
幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 ー見る、集める、伝えるー(北海道博物館第 4 回特別展図録)	2018 年 6 月	A4 判	159	1,400
北海道博物館要覧 2016・2017	2018 年 11 月	A4 判	174	600
森のちやれんがニュース 第 12～15 号		A4 判	各 8	各 3,500
第 11 回企画テーマ展『野幌森林公園いきもの図鑑』(第 11 回企画テーマ展パンフレット)	2018 年 4 月	A4 判	4	4,000
第 12 回企画テーマ展『りんご農家の道具』(第 12 回企画テーマ展パンフレット)	2018 年 9 月	A4 判	4	3,000
第 13 回企画テーマ展『アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ ー博物館のはたす役割ー』(第 13 回企画テーマ展パンフレット)	2019 年 2 月	A4 判	4	3,000

平成 30 年度に作成した広報用印刷物

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
行事あんない(2018 年 10 月～2019 年 3 月)	2018 年 9 月	A4 判、4 ページ	20,000
行事あんない(2019 年 4 月～9 月)	2019 年 3 月	A4 判、4 ページ	20,000
北海道博物館第 4 回特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 ー見る、集める、伝えるー」ポスター	2018 年 4 月	B2 判	4,000
北海道博物館第 4 回特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 ー見る、集める、伝えるー」チラシ	2018 年 4 月	A4 判	110,000
第 11 回企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」ポスター	2018 年 4 月	A2 判	150
第 11 回企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」チラシ	2018 年 4 月	A4 判	3,000
第 11 回企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」子ども用チラシ	2018 年 4 月	横 97 mm × 縦 210 mm	28,000
第 12 回企画テーマ展「りんご農家の道具」ポスター	2018 年 8 月	A2 判	170
第 12 回企画テーマ展「りんご農家の道具」チラシ	2018 年 8 月	A4 判	6,000
第 13 回企画テーマ展「アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ ー博物館のはたす役割ー」ポスター	2019 年 1 月	A2 判	150
第 13 回企画テーマ展「アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ ー博物館のはたす役割ー」チラシ	2019 年 1 月	A4 判	3,000

『ビジュアル北海道博物館』

平成 27 年度文化庁「文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業」により 2016 年 3 月に刊行した、北海道博物館の総合展示をくわしく紹介した、オールカラーのガイドブック（A4 判、全 119 ページ）です。



9 アイヌ民族文化研究センターの活動

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターは、北海道の貴重な財産であるアイヌ文化について、伝承者の高齢化等が進むなか、道の責務として総合的・体系的な研究を行い、その成果の普及等を図りアイヌ民族文化の振興に寄与することを目的に、平成6（1994）年6月に設立されました。開設後は、「調査研究やその成果の普及事業」「情報収集及び提供事業」「研究支援事業」の3つの柱により事業を展開してきました。

北海道博物館においても、内部組織としてアイヌ民族文化研究センターを置き、アイヌ民族の歴史や有形・無形の文化に関するさまざまな事業の中心を担うことを主な業務としています。

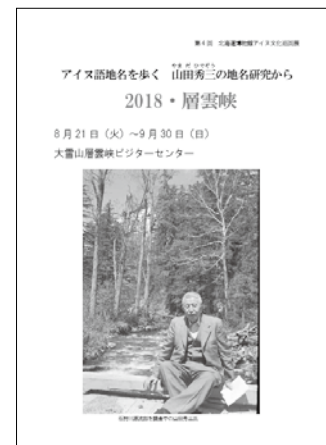
アイヌ文化巡回展

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、寄贈を受けた貴重な資料である「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の整理作業の成果を踏まえ、道内各地で「企画展」や「資料展」を開催してきました。

北海道博物館の開設初年度であった平成27（2015）年度は実施を見送りましたが、北海道の中核的博物館としてアイヌ文化の理解促進に資する役割を果たすため、平成28（2016）年度から、道内市町村等との協力のもと、地域的なバランスや開催地の要望を踏まえながら、「地名」や「物語」などを主なテーマとした「アイヌ文化巡回展」を再開しました。また、開催にあたっては、開催地の博物館等と連携し、アイヌ文化を紹介する講座等も実施しています。

平成30年度のアイヌ文化巡回展

名 称	第4回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2018 層雲峡
会 期	2018年8月21日(火)～9月30日(日)
観 覧 者 数	8,792人
場 所	大雪山国立公園層雲峡ビジターセンター(上川郡上川町)
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、層雲峡を中心とする上川町内や石狩川上流域の地名調査の資料と著作などを紹介しました。
関連普及行事	—
共 催	層雲峡地区自然ふれあい利用協議会（層雲峡ビジターセンター管理運営団体）



名 称	第5回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2018 標津
会 期	2018年10月6日(土)～10月21日(日)
観 覧 者 数	2,164人
場 所	標津町生涯学習センター「あすばる」(標津郡標津町)
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、標津町を中心とする根室管内の地名調査の資料と著作などを紹介しました。
関連普及行事	—
共 催	標津町教育委員会



資料の公開

アイヌ語、口承文芸、伝統的な生活や歴史的な出来事などについて、伝承者や体験者からの聞き取り等によって記録された資料や写真、録画などは、アイヌ文化の調査研究や継承にとって、たいへん貴重な資料です。一方で、これらの資料には、著作権やプライバシーなどに対する慎重な配慮が必要です。

当館では、このようなアイヌ文化に関する採録資料等については、まずその内容確認を行い、プライバシー情報の有無などを点検し、原則としてその資料の関係者（語り手等）と協議し、承諾を得てから公開することとしています。

公開する資料については、公開用の複製（公開用資料）を作成しています。公開用資料を作成することにより、もとの資料の保存を図るとともに、プライバシー等の事由により非公開とすることとした部分の削除等の処理を行い、関係者の権利が侵害される恐れがないようにしています。

現在のところ、公開用資料は、音声・映像資料についてはCD、DVD等で、文書資料や写真資料については紙焼きまたはデジタル画像データで作成しています。

種別		平成 29 年度までに 公開準備を終えた点数	平成30年度に公開準備を 進めた点数(公開予定数)	累計 (平成 30 年度末現在)
音声・ 映像資料	当館(アイヌ民族文化研究センター)採録・複製資料(職員による採録など)	280 (265)	5 (0)	285 (265)
	山田秀三文庫	91 (64)		91 (64)
	久保寺逸彦文庫	77 (112)		77 (112)
	小計	448 (441)		448 (441)
文書資料	山田秀三文庫	102 (-)		102 (-)
	久保寺逸彦文庫	10 (-)		10 (-)
	小計	112 (-)		112 (-)
写真資料	久保寺逸彦文庫	483 (-)		483 (-)
合計		1037	5 (0)	1043

※ 数字は累計の点数。また、() 内は作成した公開用資料の点数。

※ 文書資料及び写真資料は、公開用資料を作成していません。(閲覧等の利用には、紙焼き(プリントアウト)等を提供しています。)

平成 30 年度のアイヌ文化関連の資料閲覧(27 件)

文 書	音声・映像	民 具	そ の 他
11	6	7	3

アイヌ文化紹介小冊子の発行

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、国連の定めた「世界の先住民の国際10年」(平成6(1994)年12月～平成16(2004)年12月)の記念事業として、アイヌ文化に関する専門的な内容をわかりやすく親しみやすいかたちで紹介した小冊子(アイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ』)を、毎年1冊ずつ発行しました。

北海道博物館においても、アイヌ文化に関する研究成果の普及や道民の学習等に資するために、引き続き『ポン カンピソシ』の活用・配布を行っており、北海道博物館ホームページからも、各巻のPDFファイルをダウンロードできます。

平成30(2018)年度には全9巻の増刷を行いました。



アイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ』発行一覧

巻	タイトル(テーマ)	発行年月日	判型等	当初発行部数	増刷
1	はなす(アイヌ語)	1996(平成8)年3月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成15(2003)年3月 (1,000部)
					3刷:平成19(2007)年3月 (500部)
					4刷:平成22(2010)年3月 (2,000部)
					5刷:平成26(2014)年6月 (2,000部)
					6刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
					7刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
2	着る(衣服)	1997(平成9)年3月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成15(2003)年3月 (500部)
					3刷:平成19(2007)年3月 (500部)
					4刷:平成22(2010)年3月 (2,000部)
					5刷:平成26(2014)年6月 (2,000部)
3	食べる(食事)	1998(平成10)年3月	A5判、32ページ	10,000部	6刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
					2刷:平成22(2010)年3月 (2,000部)
					3刷:平成26(2014)年6月 (2,000部)
4	住まい	1999(平成11)年3月	A5判、32ページ	10,000部	4刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
					2刷:平成23(2011)年2月 (2,000部)
5	祈る(信仰)	1999(平成11)年11月	A5判、32ページ	10,000部	3刷:平成29(2017)年7月 (2,000部)
					4刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
6	口頭文芸	2000(平成12)年10月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成24(2012)年7月 (2,000部)
					3刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
7	芸能	2001(平成13)年9月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成24(2012)年7月 (2,000部)
					3刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
8	民具	2002(平成14)年9月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
					2刷:平成20(2008)年3月 (1,000部)
9	地名	2004(平成16)年2月	A5判、32ページ	6,000部	3刷:平成23(2011)年2月 (2,000部)
					4刷:平成28(2016)年3月 (2,000部)
					5刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
10	総集編	2005(平成17)年3月	CD-ROM	5,000部	
計				91,000部	(47,500部)

ホームページによる情報提供

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、平成13（2001）年度からインターネット上にホームページを開設し、事業のあらましや研究センターの出版物、公開している資料などを紹介するほか、アイヌ文化に関する連載記事などを通じた情報提供を行ってきました。

北海道博物館の開館後は、館のホームページの中にこれらのページを移行して運用しています。

ほっかいどうアイヌ語アーカイブ

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、平成23（2011）～平成24（2012）年度に、国（内閣府）の交付金を受けて「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ事業」を実施し、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の音声資料の公開を進めました。また、インターネットを通してこれらの資料を検索し視聴することができる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を構築しました。

現在は北海道博物館のホームページ内に「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を設け、研究センターが公開している音声資料などを検索し視聴することができます。また、アイヌ語や口承文芸、芸能などを初心者向けにわかりやすく紹介する「アイヌ語入門」のページも設けています。



学習・伝承活動の支援

市町村などの関係機関やアイヌ文化伝承活動団体などから寄せられる、学習や伝承活動に対する専門的な知見からの助言や支援の依頼に応じています。また、アイヌ文化に関する情報提供や当館資料の照会は、日常的な電話により対応しています。アイヌ文化関連のレファレンス件数は、平成30（2018）年度は124件でした。

平成30年度の他機関、団体への学習・伝承支援件数（講座・講演会の講師等は除く）（1件）

対応日	依頼先	内容	対応者
6月1日～28日	公益財団法人アイヌ民族文化財団	伝統音楽・アイヌ音楽(全5回講座の講師)	甲地利恵

10 北海道開拓の村整備事業

昭和 58 (1983) 年 4 月に開村した野外博物館・北海道開拓の村の建設は、北海道百年記念事業の一環として計画されました。建設事業は、北海道開拓記念館と、昭和 46 (1971) 年 4 月に設置された北海道野幌森林公園管理事務所 (野幌森林公園事務所、野幌森林公園分室を経て平成 22 (2010) 年度をもって廃止) とで推進され、特に開拓の村の歴史建造物の復元、および屋内展示の制作は開拓記念館が中心となって進められました。このことから、北海道博物館の開館後も、建造物や屋内展示の保存・管理は当館の重要な業務となっています。

歴史建造物の保存にあたっては、その文化財的価値を損なわないように極力当初からの材料を生かし、修復・修繕は限定的に行うことを原則としており、この方針の基に屋根や外壁などを中心に毎年数棟ずつの修復工事を実施しています。しかし、野外展示であると同時に寒冷多雪地域であるという条件は、復元建造物の保存にとっては必ずしも条件がよいとは言えない環境であることから、加速度的に腐朽や劣化が進んでおり、その対応が大きな課題となっています。

平成 30 (2018) 年度には、以下のような補修・改修を行いました。

平成 30 年度 北海道開拓の村の主な補修・改修工事

建造物補修工事	開拓の村建造物旧若狭家たたみ倉補修工事(平成 30 年 7 月～10 月) 開拓の村建造物旧龍雲寺補修工事(平成 30 年 7 月～12 月)
実施設計	開拓の村建造物旧三ツ河本そば屋、旧武井商店酒造部
老朽度調査	開拓の村建造物旧近藤染舗、旧小樽新聞社
展示改修	開拓の村建造物旧札幌農学校寄宿舎(恵迪寮) 北寮の展示写真パネル 12 点の更新(一般社団法人恵迪寮同窓会による):平成 30 年 10 月
平成 30 年台風 21 号・胆振東部地震被災にともなう補修工事	平成 30 年台風 21 号被害対応 開拓の村建造物災害被害応急処置工事(平成 30 年 9 月) 平成 30 年台風 21 号被害対応 改修工事(平成 30 年 11 月～平成 31 年 3 月) ・旧有島家住宅 ・旧本庄鉄工場 ・旧ソーケシュオマバツ駅通所・厩舎 ・旧近藤染舗 ・旧武岡商店 ・旧信濃神社 手水舎 ・旧山本組消防番屋 ・旧農商務省滝川種羊場機械庫 北海道胆振東部地震対応 地震被害改修工事 ・旧三ツ河本そば屋石蔵(平成 30 年 11 月～平成 31 年 1 月) ・旧青山家漁家住宅(母屋)(平成 31 年 2 月～3 月) 開拓の村ビジターセンター屋根飾り手摺震災対応応急措置工事(平成 30 年 12 月)
その他の災害対応	・台風 21 号樹木被害等処理(平成 30 年 10 月、平成 31 年 3 月)

11 館長、学芸・研究職員の紹介

石 森 秀 三 ISHIMORI Shuzo	職 名	館長
	称 号	国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授
	専 門	文化人類学、博物館学、観光文明学
受 賞	1986年、大平正芳記念賞	
略 歴	【職歴】 京都大学人文科学研究所研究員(1971) 国立民族学博物館第四研究部助手(1975) 国立民族学博物館第四研究部助教授(1985) 国立民族学博物館第四研究部教授(1996) 国立民族学博物館先端民族学研究部教授(1998) 国立民族学博物館民族社会研究部長(2002) 国立民族学博物館博物館民族学研究部長(2003) 国立民族学博物館文化資源研究センター長(2004) 北海道大学観光学高等研究センター長(2006) 北海道開拓記念館長(2013) 北海道博物館長(2015) 【社会活動】 観光立国懇談会委員(内閣官房)、アイヌ政策推進会議委員(内閣官房)、文化審議会文化財分科会専門委員(文化庁)、文化審議会企画調査会会長(文化庁)、国土審議会北海道開発分科会専門委員(国土交通省)、地域資源活用促進事業委員会委員長(経済産業省)等	
主な研究業績	2017;『観光創造学へのチャレンジ』北海道大学観光学高等研究センター(共編著) 2011;『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社(共編著) 2008;『大交流時代における観光創造』北海道大学(編著) 2000;『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会(編著) 2000;『博物館資料論』放送大学教育振興会(編著) 1999;『博物館概論:ミュージアムの多様な世界』放送大学教育振興会 1996;『観光の20世紀』ドメス出版(編著) 1985;『危機のコスモロジー:ミクロネシアの神々と人間』福武書店	

舟 山 直 治 Naoji FUNAYAMA	職 名	学芸部長
	学 位	学士、1982年(酪農学園大学酪農学部農業経済学科)
	担当分野	民俗
所 属 学 会	日本民俗学会、北海道・東北史研究会、北海道地域文化研究会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道における生活文化の伝承に関する研究(大祓や松前神楽の伝承、曲物製作技術について調査研究) ・博物館活動に関する研究(生活文化関係資料の活用に向けたデータベースの整備と展示会企画について調査研究) ・日本海沿岸における歴史文化遺産に関する研究(江差町、小樽市における歴史文化遺産のあり方についての調査研究) 	
近年の主な業績	2019;「端布からみた後藤家の衣服のあゆみ」『北海道博物館研究紀要』第4号(筆頭) 2018;「年中行事具」「信仰用具」「郷土芸能用具」『北海道民具事典I』北海道新聞社 2018;「滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第3号(筆頭) 2018;「北海道における民俗芸能の伝承とその特徴について」『北海道の文化』vol.90 2017;「兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承」『北海道博物館研究紀要』第2号(筆頭) 2017;「『松前神楽』の伝承」、「松前神楽函館連合保存会」『国記録選択無形民俗文化財調査報告書 松前神楽』北海道教育委員会 2016;「加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第1号(筆頭)	

自然研究グループ

水島 未記 Miki MIZUSHIMA	職 名	学芸部社会貢献グループ兼自然研究グループ学芸主幹
	学 位	修士、1993年(北海道大学大学院農学研究科)
	担当分野	生物(植物)
所属学会	日本生態学会、種生物学会、日本セトロジー研究会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・草本植物の生活史 ・動植物と人との相互作用 ・北海道における鯨類と人との関わり 	
近年の主な業績	<p>2018;「野幌森林公園地域の種子植物相」『北海道博物館研究紀要』第3号(筆頭)</p> <p>2017;「サハリンの植物相および植生から見たニヴフの植物資源利用」『北海道博物館研究紀要』第2号(筆頭)</p> <p>2017;「野幌森林公園のため池および水生植物相 —2000年～2004年と2016年の調査から—」『北海道博物館研究紀要』第2号(共著)</p> <p>2016;「生態系を『その他大勢』にどう伝えるか —北海道博物館における新たな自然史展示の試み—」『日本科学教育学会年会論文集』第40号(筆頭)</p> <p>2016;「野幌森林公園における国内外来種のツチガエルとトノサマガエルの侵入および分布拡大経過について」『北海道博物館研究紀要』第1号(共著)</p> <p>2016;『ニヴフ語音声資料 13(シュミット方言) —オリガ・ポリソヴナ・コヴァン—』札幌学院大学(共著)</p>	

添田 雄二 Yuji SOEDA	職 名	学芸部道民サービスグループ兼自然研究グループ学芸主査
	学 位	博士(理学)、2011年(鹿児島大学)
	担当分野	地学
所属学会	日本第四紀学会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道における中～後期更新世以降のゾウ類についての研究 ・17世紀の寒冷期と巨大噴火津波がアイヌ民族に与えた影響についての研究 ・石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元 	
近年の主な業績	<p>2019;「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響Ⅳ」『北海道博物館研究紀要』第4号(筆頭)</p> <p>2018;「17世紀の自然災害とアイヌ社会—伊達市の調査事例から—」『季刊考古学』146号 雄山閣(筆頭)</p> <p>2018;『伊達市カムイタブコブ下遺跡発掘調査報告書 近世アイヌ文化期の集落』北海道博物館(筆頭編者)</p> <p>2018;「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響Ⅲ」『北海道博物館研究紀要』第3号(筆頭)</p> <p>2018;「北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代」『北海道博物館研究紀要』第3号(共著)</p> <p>2017;「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響Ⅱ」『北海道博物館研究紀要』第2号(筆頭)</p> <p>2017;「伊達市カムイタブコブ下遺跡」『遺跡調査報告会資料集』北海道考古学会(共著)</p>	

表 溪 太 Keita OMOTE

職 名	学芸部博物館基盤グループ兼自然研究グループ学芸員
学 位	博士(理学)、2016年(北海道大学大学院理学院)
担当分野	生物(動物)

所 属 学 会	日本動物学会、日本鳥学会
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の動物の系統地理学的研究 ・博物館標本の DNA 分析を用いた生態学的研究 ・鳥類の羽毛、哺乳類毛等の形態による種同定法に関する研究
近年の主な業績	<p>2018;「河川環境とシマフクロウ」『ビオストーリー』30号 生き物文化誌学会</p> <p>2018;「野幌森林公園地域の種子植物相」『北海道博物館研究紀要』第3号 (共著)</p> <p>2017;“Phylogeography of continental and island populations of Blakiston’s fish-owl (<i>Bubo blakistoni</i>) in Northeastern Asia” <i>Journal of Raptor Research</i>, 52(1) The Raptor Research Foundation (筆頭)</p> <p>2017;“Duplication and variation in the major histocompatibility complex genes in Blakiston’s fish owl, <i>Bubo blakistoni</i>” <i>Zoological Science</i>, 34(6) Zoological Society of Japan (筆頭)</p> <p>2015;“Recent fragmentation of the endangered Blakiston’s fish owl (<i>Bubo blakistoni</i>) population on Hokkaido Island, northern Japan, revealed by mitochondrial DNA and microsatellite analyses” <i>Zoological Letters</i> (筆頭)</p> <p>2014;“Spatial and temporal variation at major histocompatibility complex class IIB genes in the endangered Blakiston’s fish owl” <i>Zoological Letters</i> (共著)</p>

圓 谷 昂 史 Takafumi EN'YA

職 名	学芸部道民サービスグループ兼自然研究グループ研究職員
学 位	修士、2014年(北海道教育大学大学院理科教育専修)
担当分野	地学

所 属 学 会	古生物学会、日本貝類学会、漂着物学会、日本理科教育学会
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道から産出する軟体動物化石からみた古環境復元 ・北海道沿岸の漂着物を用いた博物館における環境教育
近年の主な業績	<p>2018;「サハリン島南部地域における海岸漂着物の特徴」『漂着物学会誌』16巻 (筆頭)</p> <p>2018;“Clavate Gastrochaenolites produced by the rock-boring clam <i>Penitella kamakurensis</i> from Aonae Beach on Okushiri Island, Hokkaido” 『漂着物学会誌』16巻 (共著)</p> <p>2018;「北海道北広島市西の里で認められたサンドリッジ堆積物の堆積相・古流向とその意義」『北海道博物館研究紀要』第3号 (共著)</p> <p>2018;「北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代」『北海道博物館研究紀要』第3号 (筆頭)</p> <p>2016;「北海道北広島市西の里から産出した貝化石(速報)」『北海道博物館研究紀要』第1号 (筆頭)</p> <p>2015;「西南北海道上ノ国町におけるカズラギ(複足綱・トウカムリ科)の発見」<i>Molluscan diversity</i> 4(1) (筆頭)</p> <p>2015;「2010～2014年において北海道余市湾沿岸に漂着したアオイガイ」『北海道開拓記念館研究紀要』43巻 (筆頭)</p> <p>2014;「北海道日本海沿岸の打ち上げ貝類から見た生物多様性と海洋環境」『北海道教育大学大学院修士論文』</p>

歴史研究グループ

右代 啓視 Hiroshi USHIRO	職 名	総務部企画グループ兼歴史研究グループ学芸主幹
	学 位	博士(歴史学)、2011年(駒澤大学大学院)
	担当分野	考古
所属学会	日本考古学協会、第四紀学会、北海道考古学会、チャシ学会、北方島文化研究会 他	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> 千島列島における人類活動史の考古学的総合研究 先史文化の環境変化と文化形成の研究 北東アジアにおける要害遺跡の形成過程の研究 	
近年の主な業績	<p>2019;「千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(Ⅳ)ー特に北方四島の先史文化研究を中心にー」『北海道博物館研究紀要』第4号(筆頭)</p> <p>2018;“Remains of Kunashiri Island—from Research on the Materials Collected in the Yuzhno-Kuriliskij Regional Museum—” <i>Research Association of Culture in Northern Islands</i>. No.13. Research Association of Culture in Northern Islands (筆頭)</p> <p>2018;「千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(Ⅲ)ー特に北方四島の先史文化研究を中心にー」『北海道博物館研究紀要』第3号(筆頭)</p> <p>2017;“Study of the History of Anthropogenic Activity on the Kuril Islands and an Approach to Solving Problems Existing in the Area.” <i>Circum-pacific Archeology: In the Memory of Igor Yakovlevich Shevkomud</i></p> <p>2017;「古環境復元と遺跡の立地」『浜頓別町ブタウス遺跡報告書』浜頓別町教育委員会(筆頭)</p> <p>2017;「千島列島における人類活動史の考古学総合研究(Ⅱ)ー特に北方四島の先史文化研究を中心にー」『北海道博物館研究紀要』第2号(筆頭)</p> <p>2016;「千島列島における人類活動史の考古学的研究(Ⅰ)ー特に北方四島の先史文化研究を中心にー」『北海道博物館研究紀要』第1号(筆頭)</p>	

三浦 泰之 Yasuyuki MIURA	職 名	総務部企画グループ兼歴史研究グループ学芸主幹
	学 位	学士、1996年(京都大学文学部日本史学科)
	担当分野	歴史(近世・近代)
所属学会	日本史研究会、北海道史研究協議会、松浦武四郎研究会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> 北海道内における「文書資料」「記録資料」の所在把握と活用に関する基礎的研究 近世・近代における北海道の文化史に関する基礎的研究 北海道記録映画史に関する基礎的研究 松浦武四郎の生涯と幕末・明治期の北海道及び日本社会に関する基礎的研究 	
近年の主な業績	<p>2018;「第19講 松浦武四郎ー時代を見つめ、集めて、伝えた、希代の旅人」筒井清忠編『明治史講義【人物篇】』ちくま新書</p> <p>2018;「松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの領収証類について(6)ー安政5年(1858)分(2)ー」『松浦武四郎研究会会誌』第75号 松浦武四郎研究会</p> <p>2017;「北海翁著 梅嵯峨誌」『松浦武四郎研究会会誌』第73号 松浦武四郎研究会</p> <p>2016;「近世編 松前三湊の繁栄」、「資料編 北海道史に関わって活字化されている主な史料および史料集の目次情報」北海道史研究協議会(編)『北海道史事典』北海道出版企画センター</p> <p>2016;「『移住』してきた(古文書)は語る」北海道博物館協会学芸職員部会(編)『北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》北海道で残したいモノ伝えたいコト』寿郎社</p> <p>2014;「戦前・戦後の北海道を生きた撮影技師・栃木栄吉の生涯ー北海道記録映画史序説ー」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号</p> <p>2014;「神奈川大学日本常民文化研究所所蔵 林孫蔵家文書『松前町年寄詰所日記抜書』Ⅱ」『余市水産博物館研究報告別冊』(共編)</p>	

山田 伸一 Shin'ichi
YAMADA

職名	学芸部博物館基盤グループ兼歴史研究グループ学芸主査
学位	修士、1996年(北海道大学大学院文学研究科)
担当分野	歴史(近現代)

所属学会	日本史研究会、函館日口交流史研究会
研究課題	・近現代の北海道およびその周辺地域における人間と自然環境の関係史 ・近現代のアイヌ政策史・アイヌ史
近年の主な業績	2019;「一八八二年四月、襟裳岬近くで座礁した英国船」『北海道博物館研究紀要』第4号 2018;「札幌県(1882～1886年)におけるアイヌ民族の飢餓」『新しい歴史学のために』第292号 京都民科歴史部会 2018;「開拓使とキツネ」『北海道博物館研究紀要』第3号 2017;「来日はバットとボールを持ってーアルバート・G・ペイツのこころー」『北海道博物館 第3回特別展「プレイボール!」ガイドブック』 2017;「下北半島風間浦村、大石神社の『蝦夷地・場所図』はどこを描いたものか」『北海道博物館研究紀要』第2号 2015;「平福百穂『アイヌ』の周辺」『北海道開拓記念館研究紀要』第43号 2015;「明治初期北海道におけるシカの産業利用」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』北海道開拓記念館

鈴木 琢也 Takuya SUZUKI

職名	学芸部博物館基盤グループ兼歴史研究グループ学芸主査
学位	修士、2001年(福島大学大学院地域政策科学研究科)
担当分野	考古

所属学会	日本考古学協会、北海道考古学会、北方島文化研究会
研究課題	・日本列島北部地域における古代・中世の文化集団移動に関する研究 ・日本列島北部地域における古代・中世の物流交易に関する研究 ・北方四島における先史文化の考古学的基礎研究
近年の主な業績	2019;「千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(Ⅳ)ー特に北方四島の先史文化研究を中心にー」『北海道博物館研究紀要』第4号(共著) 2018;「[書評と紹介]小口雅史編『古代国家と北方世界』」『弘前大学國史研究』第145号 弘前大学國史研究会 2018;「千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(Ⅲ)ー特に北方四島の先史文化研究を中心にー」『北海道博物館研究紀要』第3号(共著) 2017;「平泉関係遺跡集成『北海道』」『科学研究費基盤研究(B)「平泉研究の資料学的再構築」報告書 平泉関係遺跡集成』研究代表者 柳原敏昭 2016;「平泉政権下の北方交易システムと北海道在地社会の変容」『歴史評論』第795号 歴史科学協議会・校倉書房 2016;「須恵器からみた古代の北海道と秋田」『北方世界と秋田城 考古学リーダー25』六一書房 2016;「擦文文化の成立過程と秋田城交易」『北海道博物館研究紀要』第1号

東 俊 佑 Shunsuke
AZUMA

職 名	学芸部道民サービスグループ兼歴史研究グループ学芸主査
学 位	修士、2002年(東北学院大学大学院文学研究科)
担当分野	歴史(中・近世)

所 属 学 会	北海道・東北史研究会、東北史学会、歴史学研究会、北海道史研究協議会、北方島文化研究会
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道博物館所蔵の文書資料(近世文書)に関する研究 ・蝦夷地のアイヌ有力者が入手した外来交易品と勘定システムの成立に関する研究 ・コレクション形成史からみる日露関係史
近年の主な業績	<p>2019;『土人給料勘定』のしくみ(Ⅱ)－北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析－』『北海道博物館研究紀要』第4号</p> <p>2019;「北蝦夷地ウシヨロ場所における漆器の流入とアイヌの給料勘定」浅倉有子(編)『アイヌの漆器に関する学際的研究』北海道出版企画センター</p> <p>2018;『土人給料勘定』のしくみ(Ⅰ)－北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析－』『北海道博物館研究紀要』第3号</p> <p>2018;「北海道博物館におけるワークシートの開発と学校利用」『北海道博物館研究紀要』第3号</p> <p>2017;「安永7年の蝦夷地奉行定書について」『北海道博物館研究紀要』第2号</p> <p>2017;『トコンヘー件』再考－北蝦夷地ウシヨロ場所におけるアイヌ支配と日露関係－」白木沢旭児(編)『北東アジアにおける帝国と地域社会』北海道大学出版会</p>

田 中 祐 未 Yumi TANAKA

職 名	学芸部道民サービスグループ兼歴史研究グループ学芸員
学 位	学士、2014年(北海道教育大学)
担当分野	美術史

所 属 学 会	北海道芸術学会
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の鳥瞰図に関する研究 ・アイヌ絵に関する研究
近年の主な業績	2014年4月から2018年11月までの期間、北海道地図株式会社 総合技術センターに在籍し、防災マップや観光パンフレット等のグラフィックデザインを担当した。

生活文化研究グループ

池田 貴夫 Takao IKEDA	職名	学芸部道民サービスグループ兼生活文化研究グループ学芸主幹
	学位	博士(学術)、2007年(名古屋大学)
	担当分野	民俗
所属学会	北海道・東北史研究会、日本民具学会、日本生活学会、美学芸術学会、日本民俗学会、日本文化人類学会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるモノの処分と靈魂感—博物館へのモノの寄附という行為の分析から— ・糞突き棒(仮称)の研究 ・北海道の季節行事に関する研究 	
近年の主な業績	2019;「端布からみた後藤家の衣服のあゆみ」『北海道博物館研究紀要』第4号(共著) 2018;「北海道のクマ信仰・クマ儀礼」生き物文化誌学会(編)『BIOSTORY』vol. 30 誠文堂新光社 2018;「北海道 150年—急速に姿を変えた北の大地—」『土木学会誌』Vol.103 No.8 2018;「来館者調査からみる北海道博物館の総合展示室およびはっけん広場の現状と課題」『北海道博物館研究紀要』第3号(共著) 2017;「道具・衣装」公開状況総論「福島町松前神楽保存会」『国記録選択無形民俗文化財調査報告書 松前神楽』北海道教育委員会 2017;「日本領期への樺太における温泉開発と温泉をめぐる人びとの精神誌」白木沢旭児(編著)『北東アジアにおける帝国と地域社会』北海道大学出版会 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告—」『北海道博物館研究紀要』第1号(筆頭)	

山際 秀紀 Hideki YAMAGIWA	職名	学芸部博物館基盤グループ兼生活文化研究グループ学芸主査
	学位	修士、1994年(大谷大学大学院文学研究科)
	担当分野	産業史(農業)
所属学会	北海道産業考古学会	
研究課題	・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査	
近年の主な業績	2019;「北海道における亜麻生産とバイオリン播種器—現存する資料の構造分析を中心に—」『北海道博物館研究紀要』第4号 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告—」『北海道博物館研究紀要』第1号(共著) 2015;「北海道におけるアメリカ製畜力農具の導入とプラウ製造技術の発達」『北方地域の人と環境の関係史 研究報告』北海道開拓記念館	

会田 理人 Masato AIDA	職名	総務部企画グループ兼生活文化研究グループ学芸主査
	学位	修士、2002年(北海道大学大学院文学研究科)
	担当分野	産業史(漁業)
所属学会	日本民具学会、北海道大学東洋史談話会、北海道産業考古学会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査 ・北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究 ・日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関に関する研究 	
近年の主な業績	2018;「全道樺太実業野球大会」『北海道博物館研究紀要』第3号 2016;「『ニシん釜』はどこで作られていた?」北海道博物館協会学芸職員部会(編)『北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》北海道で残したいモノ伝えたいコト』寿郎社 2016;「樺太日日新聞」掲載コンブ関係記事—目録と紹介(1923-29年)—」『北海道博物館研究紀要』第1号 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告—」『北海道博物館研究紀要』第1号(共著) 2015;「日本領南樺太の実業団野球大会」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』北海道開拓記念館 2014;「『小樽新聞』掲載明治三陸地震・津波関連記事:目録と紹介」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号	

青柳 かつら Katsura AOYAGI

職 名	学芸部社会貢献グループ兼生活文化研究グループ学芸主査
学 位	博士(環境学)、2011年(筑波大学大学院生命環境科学研究科)
担当分野	産業史(林業)

所 属 学 会	日本森林学会、林業経済学会
研 究 課 題	・少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発 ・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査 ・寒冷地の自然と適応に関する研究
近年の主な業績	2019;「少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発－東旭川における高齢者参画型地域資源マップの効果と課題－」『北海道博物館研究紀要』第4号 2018;『JSPS 科研費 15K01153 報告書 2. 士別市朝日町の歴史と文化: 回想法サロンと異世代交流の記録』 2018;『JSPS 科研費 15K01153 報告書 1. 博物館を拠点とした高齢者と協働する地域学習プログラム集』 2017;『ぐるっと東旭川たんけんマップ』(JSPS 科研費中間報告) 2017;「高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発(Ⅱ)－独居後期高齢者向け回想法サロンの効果と課題－」『北海道博物館研究紀要』第2号 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり－総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告－」『北海道博物館研究紀要』第1号(共著) 2016;「高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発－2015年北海道と2003年全国の博物館園対象高齢者プログラムアンケート調査結果の比較から－」『北海道博物館研究紀要』第1号

尾曲 香織 Kaori OMAGARI

職 名	学芸部博物館基盤グループ兼生活文化研究グループ学芸員
学 位	修士、2013年(筑波大学大学院人文社会科学研究科)
担当分野	民俗

所 属 学 会	日本民俗学会、現代民俗学会、日本民具学会、歴史人類学会、女性民俗学研究会
研 究 課 題	・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査
近年の主な業績	2019;「端布からみた後藤家の衣服のあゆみ」『北海道博物館研究紀要』第4号(共著) 2018;「北海道陸別町における結婚披露と会費制祝賀会－昭和46年から55年の事例をもとに－」『女性と経験』43号 女性民俗学研究会 2018;「新十津川における女性のくらし－結婚や出産に関わる習俗の変化についての一考察－」『北海道博物館研究紀要』第3号 2018;「滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第3号(共著) 2018;「出産・生育」「婚姻」「食と儀礼」ほか『土浦市民俗調査報告書 第2集 藤沢・斗利出の民俗－桜川左岸の低地・台地の環境と暮らし－』土浦市立博物館 2017;「兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承」『北海道博物館研究紀要』第2号(共著) 2016;「新生活運動とある女性の葛藤－生活の合理化と地域から求められる役割－」『筑波大学地域研究』第37号

博物館研究グループ

堀 繁久 Shigehisa HORI	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼博物館研究グループ学芸主幹
	学 位	学士、1985年(琉球大学理学部生物学科)
	担当分野	博物館学、昆虫
所属学会	日本昆虫学会、日本甲虫学会、日本蛾類学会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本および北海道周辺の昆虫相の解明とその変遷 ・市民と協働による野幌森林公園の生物インベントリーの解明 	
近年の主な業績	<p>2017;「バリ自然史博物館ー海外の自然史博物館における収蔵庫と収蔵展示を考える」『自然史レガシー継承・発信実行委員会 2017』(筆頭)</p> <p>2017;増補改訂版『探そう!ほっかいどうの虫』北海道新聞社</p> <p>2017;「北海道におけるシラキトビナナフシとヤスマツトビナナフシの分布について」『北海道博物館研究紀要』第2号(筆頭)</p> <p>2016;「野幌森林公園における国内外来種のツチガエルとトノサマガエルの侵入および分布拡大経過について」『北海道博物館研究紀要』第1号(筆頭)</p> <p>2016;“A New Species of the Genus <i>Asessinia</i> (Coleoptera, Oedemeridae) from Central Honshu and Southwestern Hokkaido” <i>Elytra N.S.</i>, 06(1) 日本甲虫学会(共著)</p> <p>2015;『昆蟲図鑑 北海道の蝶と蛾』北海道新聞社(共著)</p> <p>2015;「北海道博物館の新しい自然展示 生き物たちの北海道」『博物館研究』平成27年10月号</p>	

杉山 智昭 Tomoaki SUGIYAMA	職 名	学芸部社会貢献グループ兼博物館研究グループ学芸主査
	学 位	博士(文化財)、2018年(東京藝術大学)
	担当分野	文化財保存科学
所属学会	文化財保存修復学会、日本文化財科学会、The International Biodeterioration Biodegradation Society	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の劣化に関する研究 ・文化財の保存環境に関する研究 ・文化財の科学分析 	
近年の主な業績	<p>2019;「X線CTによるアイヌ民族資料「シントコ(行器)」の製作技法および劣化現況に関する調査」『北海道博物館研究紀要』第4号(筆頭)</p> <p>2019;「新規導入展示ケースにおけるアルデヒド類の放散について」『北海道博物館研究紀要』第4号(筆頭)</p> <p>2019;「平成30年度 北海道博物館資料保存修復報告」『北海道博物館研究紀要』第4号</p> <p>2018;「津波による水損文化財の緊急避難措置としての低酸素濃度処理法の評価(II)ー紙製文化財に対する好気性糸状菌の活動抑制効果についてー」『北海道博物館研究紀要』第3号</p> <p>2016;「津波による水損文化財の緊急避難措置としての低酸素濃度処理法の評価ー糸状菌の活動抑制に対する効果的運用についてー」『北海道博物館研究紀要』第1号</p> <p>2016;「アイヌ民族文化財のX線CTによる現況調査(II)」『北海道博物館研究紀要』第1号(共著)</p> <p>2016;「寒冷地における歴史的木造建築物の保存にむけてー旧開拓使工業局庁舎を例にー」『平成27年度東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター紀要』</p>	

櫻井 万里子 Mariko SAKURAI	職 名	学芸部社会貢献グループ兼博物館研究グループ主査
	学 位	学士、1997年(藤女子大学文学部国文学科)
	担当分野	図書館情報学
所属学会	日本図書館協会、専門図書館協議会	
研究課題	・博物館の研究成果のデータベース化及び情報発信に関する研究	

栗原 憲一 Ken'ichi KURIHARA

職名	学芸部社会貢献グループ兼博物館研究グループ学芸主査
学位	博士(理学)、2006年(早稲田大学)
担当分野	博物館学、地学

所属学会	日本古生物学会、日本地球惑星科学連合、日本展示学会、全日本博物館学会、日本サイエンスコミュニケーション協会
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産白亜紀アンモナイト類の産地データベースの作成と博物館資料の学術的活用に関する研究 ・北海道ののぞましい博物館のあり方に関する市民意識調査に関する研究 ・博物館教育プログラムと教材キット開発に関する研究 ・博物館と地域資源活用型プログラム(ジオパーク)との関わりに関する研究
近年の主な業績	<p>2018;「北海道博物館協会学芸職員部会によるスキルアッププログラム」『博物館研究』第53巻10号(共著)</p> <p>2018;「来館者調査からみる北海道博物館の総合展示室およびはっけん広場の現状と課題」『北海道博物館研究紀要』第3号(筆頭)</p> <p>2017;“The Oldest Asian hesperornithiform from the Upper Cretaceous of Japan, and the phylogenetic reassessment of Hesperornithiformes” <i>Journal of Systematic Palaeontology</i> Taylor & Francis National History Museum (共著)</p> <p>2017;“A new species of Eubostrychoceras (Ammonoidea, Nostoceratidae) from the lower Campanian in the northwestern Pacific realm” <i>Paleontological Research</i>, 21(3) Paleontological Society of Japan (共著)</p> <p>2017;「模型製作で科学コミュニケーションー北広島マンモス大復活プロジェクトー」『日本サイエンスコミュニケーション協会誌』第7巻1号 日本サイエンスコミュニケーション協会(筆頭)</p> <p>2016;「ジオパークにおける博物館活動の役割ー三笠ジオパークの三笠市立博物館の事例とともにー」『地学雑誌』第125巻6号</p> <p>2016;“The Last Surviving Ammonoid at the end of the Cretaceous in the North Pacific Region” <i>Paleontological Research</i>, 20(2) (筆頭)</p>

鈴木 明世 Akiyo SUZUKI

職名	学芸部道民サービスグループ兼博物館研究グループ研究職員
学位	修士、2018年(早稲田大学大学院創造理工学研究科)
担当分野	建築学

所属学会	日本建築学会、日本生活学会、道具学会
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・野外博物館における歴史建造物の保存・修復に関する研究 ・北海道及び寒冷地の住生活文化に関する研究 ・北海道における建築技術の流入・変質に関する研究
近年の主な業績	<p>2018;「千年村研究 地質基盤と社会構造の変遷からみる千年村の持続形態 ー群馬県利根川流域を対象としてー」(早稲田大学大学院修士論文)</p> <p>2018;『長谷寺門前町周辺地区景観まちづくりの手引き』奈良県桜井市(共著)</p> <p>2017;「土地条件の違いによる養蚕民家の変容過程の差異」『建築学会学術講演梗概集 2017(建築歴史・意匠)』(筆頭)</p> <p>2016;「アイヌ語地名から見る現北海道沙流川流域における生活空間 ーその変遷過程の解明 ー千年村研究その8ー」『建築学会学術講演梗概集 2016(建築歴史・意匠)』(筆頭)</p>

鈴木 あすみ Asumi SUZUKI

職 名	学芸部博物館基盤グループ兼博物館研究グループ学芸員
学 位	修士、2018年(帯広畜産大学大学院)
担当分野	博物館資料学

所属学会	日本哺乳類学会、日本生態学会
研究課題	・小型哺乳類の骨格についての機能形態学的研究 ・博物館資料の情報の利活用に関する研究
近年の主な業績	2018;「トガリネズミ形目4属における椎骨の半地下適応に関する機能形態学的比較」(帯広畜産大学大学院修士論文) 2016;「トガリネズミ属動物2種における掘削適応に関する椎骨の機能形態学的比較」(帯広畜産大学卒業論文)

村上 孝一 Kouichi MURAKAMI

職 名	総務部企画グループ兼博物館研究グループ学芸員
学 位	学士、1978年(北海道工業大学建築工学科)
担当分野	建築

所属学会	日本建築学会、日本民俗建築学会
研究課題	・野外博物館北海道開拓の村復元建造物の保存・修復に関する研究 ・北海道の住生活文化に関する研究
近年の主な業績	2018;「滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第3号(共著) 2017;「兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承」『北海道博物館研究紀要』第2号(共著) 2016;「世代間対話の場としての博物館づくりー総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告ー」『北海道博物館研究紀要』第1号(共著) 2016;「加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第1号(共著) 2015;「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(V)」『北海道開拓記念館研究紀要』第43号(共著) 2014;「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(IV)」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号(共著)

アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ

小川 正人 Masahito OGAWA	職 名	学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長兼研究部長
	学 位	博士(教育学)、1995年(北海道大学)
	担当分野	アイヌ史(教育史)
所 属 学 会	教育史学会、北海道・東北史研究会、日本教育学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・近代北海道のアイヌ教育史に関する調査研究 ・近代アイヌ史研究に関する基礎的資料の収集・整理と提供 ・アイヌ史に関する研究情報の集積と提供 	
近年の主な業績	<p>2019;「雑誌『ウタリ乃光リ』及びチン青年団団則 —2018(平成30)年度新収蔵資料の紹介2—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号</p> <p>2018;「教科書とアイヌ像 : アイヌ民族と教科書の問題の現在」『世界の教科書にみる昔話』三弥井書店</p> <p>2018;「釧路市・清野写真館旧蔵写真—2017年度新収蔵資料の紹介—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号(筆頭)</p> <p>2017;「鍋沢元蔵書誌」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号(筆頭)</p> <p>2016;「アイヌ文献目録 2000~2009(その2) (雑誌・逐次刊行物編)」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第1号(筆頭)</p> <p>2015;「函館と近代アイヌ教育史 —谷地頭にあったアイヌ学校の歴史—」『市立函館博物館研究紀要』第25号</p> <p>2014;「『第二尋常小学校』の意味:近代北海道のアイヌ教育史における『別学』原則の実態」『教育史・比較教育論考』第21号</p>	

甲 地 利 恵 Rie KÔCHI	職 名	アイヌ文化研究グループ兼学芸部社会貢献グループ研究主幹
	学 位	修士(教育学)、1988年(東京学芸大学大学院教育学研究科)
	担当分野	アイヌ文化(音楽)
所 属 学 会	東洋音楽学会、日本民俗音楽学会、北海道民族学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道内の各地域に伝承されるアイヌ音楽についての調査研究 ・アイヌの歌謡の旋律構造と歌唱形式に関する調査研究 	
近年の主な業績	<p>2018;「アイヌ音楽の音声資料—公刊されたアナログレコード盤—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号</p> <p>2017;「アイヌ音楽における奇数拍節及び『音頭一同』形式との関係について」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号</p> <p>2015;「アイヌ音楽における歌唱スタイルの多様性の検討に向けた試み—平取地方の『cupka wa kamuy ran』録音資料の比較をとおして—」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第21号</p> <p>2014;“The polyphonic elements in the monophonic singing styles of traditional Ainu music“ R.Tsurtsmia・J.Jordania 編 <i>The Sixth International Symposium on Traditional Polyphony (24-28 September 2012 Tbilisi, Georgia) Proceedings</i> International Research Center for Traditional Polyphony of Tbilisi Vano Sarajishvili Tbilisi State Conservatoire, Georgia</p>	

田村 雅史 Masashi TAMURA

職名	学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ文化研究グループ研究主査
学位	博士(文学)、2011年(千葉大学大学院社会文化科学研究科)
担当分野	アイヌ語

所属学会	日本語学会
研究課題	・北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査
近年の主な業績	2019;「アイヌ語ブロックのその後ー普及行事での活用ー」『北海道博物館研究紀要』第4号 2017;「2016年度博物館実習において実施した来場者調査について」『北海道博物館研究紀要』第2号(共著) 2016;「北海道博物館における言語展示への試み(報告)ー総合展示第2テーマに設置した『アイヌ語ブロック』を中心にー」『北海道博物館研究紀要』第1号(筆頭) 2014;「アイヌ語白糠方言における tek の用法」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第20号

大谷 洋一 Yoh'ichi OOTANI

職名	学芸部社会貢献グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
学位	
担当分野	アイヌ文学

所属学会	日本口承文芸学会、北海道民族学会
研究課題	・アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究 ・アイヌ語原文による口承文芸資料の情報収集と調査研究
近年の主な業績	2019;「アイヌ口承文芸『散文説話』ータンネサラの男ー」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号 2018;「アイヌ口承文芸『散文説話』ー人間の女に惚れたフリを殺した男ー」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号 2017;「アイヌ口承文芸で語られる河童について」『口承文芸研究』第40号 日本口承文芸学会 2017;「アイヌ口承文芸『散文説話』ー山の神と沖の神の子を身ごもった女の物語ー」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号 2016;「アイヌ口承文芸『散文説話』ー河童に助けられた男の物語ー」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第1号 2015;「カムイの散文説話ー白キツネ兄弟の物語ー」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第21号

遠藤 志保 Shiho ENDO

職名	総務部企画グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
学位	修士、2007年(千葉大学大学院文学研究科)
担当分野	アイヌ文学

所属学会	日本口承文芸学会
研究課題	・鍋沢元蔵氏筆録資料をテキストとした、アイヌ英雄叙事詩に関する研究
近年の主な業績	2018;「アイヌ英雄叙事詩におけるハヨクペの語られ方」『口承文芸研究』第41号 日本口承文芸学会 2017;「北海道」『47都道府県・妖怪伝承百科』丸善出版 2017;「アイヌ英雄叙事詩における登場人物の感情表現」『ひろがる北方研究の地平線 中川裕先生還暦記念論文集』サッポロ堂書店 2016;『国立民族学博物館調査報告 No.134 国立民族学博物館所蔵 鍋沢元蔵ノートの研究』(共編) 2015;「アイヌ韻文文学における接続句」アンナ・ブガエワ、長崎郁編『アイヌ語研究の諸問題』北海道出版企画センター 2014;「アイヌ英雄叙事詩における敵対者の復活ーなぜ『童子たち』は一度しか現れないのかー」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』第16号 千葉大学ユーラシア言語文化論講座

大 坂 拓 Taku OSAKA

職 名	学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
学 位	修士、2008年(明治大学)
担当分野	アイヌ文化(生活技術)

所 属 学 会	日本考古学協会、考古学研究会、北海道考古学会
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの物質文化に関する基礎的研究 ・物質文化から見た噴火湾アイヌの近現代史 ・北海道博物館所蔵資料に関する基礎情報の集積
近年の主な業績	<p>2019;「浜益地域のアイヌ民具資料に関する基礎的検討」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号</p> <p>2019;「アイヌ民族の編袋 —地域差と年代差、及び「土産物」・「伝統工芸品」としての継承—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第4号</p> <p>2018;「アイヌ民族の荷縄—地域差と年代差、及び用途による形態差に関する基礎的検討—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号</p> <p>2018;「北海道アイヌの『死者用靴』—日高東部地域の東方系出自集団に固有の死装束とその周辺—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号</p> <p>2017;「アイヌ民族の刀帯 —分類群の共時的分布と通時的変化—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号</p> <p>2016;「アイヌの儀礼用冠について —北海道大学植物園・博物館所蔵資料の検討—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第1号</p> <p>2016;「北海道乙部町伝世の木綿衣ほか —平成27年度新収蔵資料の紹介—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第1号</p>

亀 丸 由 紀 子

Yukiko
KAMEMARU

職 名	学芸部道民サービスグループ兼アイヌ文化研究グループ学芸員
学 位	修士、2019年(北海道大学)
担当分野	アイヌ文化(民具)

所 属 学 会	日本ミュージアム・マネジメント学会
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの物質文化に関する基礎的研究 ・先住民と博物館の関わりに関する研究
近年の主な業績	<p>2019;「博物館と先住民の共同に関する研究 —博物館勧告・ガイドラインを事例として—」(北海道大学大学院修士論文)</p> <p>2015;「4. 墓標調査報告」、「5. 考察(7)墓標型式各論 ④低頭墓標」『越前三国湊の中近世墓標』(平成26~30年度 科学研究費補助金「石像物研究に基づく新たな中近世史の構築」(基盤研究(A)) 研究成果報告書1) 関根達人・弘前大学人文学部 (共著)</p>